

令和7年度
和歌山リハビリテーション専門職大学
シラバス
(実務家教員担当科目)

健康科学部
リハビリテーション学科
理学療法学専攻 作業療法学専攻

講義名	理学療法概論				
講師名	松永秀俊（実務経験者）				
学年	1	年	学期	前期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	授業目標は、理学療法の対象、目的、役割などの理解を深め、理学療法の目指すものを正しく理解することである。また、作業療法実施過程や理論を知り、各領域の作業療法を理解することである。授業内容として、作業療法の定義や理念、作業療法の捉えている理学療法とは何か、対象や働く場所、人の健康の捉え方(ICF)、社会状況や法・制度、他職種連携について学習する。				
授業計画	第1回	理学・作業療法の歴史、理学・作業療法の定義、理学・作業療法を構成する各種技術の概要、理学療法とリハビリテーション。			
	第2回	理学・作業療法と障害、医学の領域、理学・作業療法の対象。			
	第3回	理学療法の流れ、理学療法における診療ガイドラインの適用。			
	第4回	理学療法士の使命と倫理、理学療法士に関する法律。			
	第5回	理学療法士・作業療法士が働く現場。			
	第6回	理学療法士・作業療法士の職能及び多職種について。			
	第7回	理学療法（士）教育。			
	第8回	中枢神経疾患理学療法概論。			
	第9回	骨関節疾患理学療法概論。			小テスト1～8
	第10回	小児理学療法概論。			
	第11回	感染予防。			
	第12回	理学療法研究。			
	第13回	理学療法士と報酬。			
	第14回	医療事故。			
	第15回	理学療法記録とまとめ方、臨床実習において学生に求められるもの。			
履修上の注意	毎回出席し、予習・復習をしっかりと行うこと。				
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する				
テキスト	参考図書、その他				
理学療法概論テキスト（理学療法入門テキスト 改訂第3版）著者名：監修 細田多穂、編集 中島喜代彦、森田正治、久保田章仁 出版社：南江堂			理学療法概論 医歯薬出版		

講義名	基礎理学療法学Ⅰ				
講師名	禹炫在（実務経験者）				
学年	1	年	学期	前期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	授業目標は、理学療法の歴史や、理学療法士の活動と役割を理解すること理学療法における基礎的な構成要素を理解できることとする。授業内容は歴史を通し、現在のあるべき理学療法像の言及すべく分析を行ない、レポートにて考察することで理解を含めていく。				
授業計画	第1回 リハビリテーションとは 第2回 理学療法とは 第3回 理学療法士の要件 第4回 リハビリテーション医療における理学療法士の責務 第5回 運動の効果と必要性 第6回 2次的障害と対策 第7回 理学療法の実際1（接遇・マナー・患者対応） 第8回 理学療法の実際2（姿勢変換・自動運動・他動運動） 第9回 理学療法の実際3（理学療法における評価） 第10回 理学療法の実際4（関節可動域訓練、筋力増強訓練） 第11回 理学療法実5（ADLトレーニング） 第12回 理学療法と補装具 第13回 障がい者の心理的・社会的問題と理学療法 第14回 障がい者のスポーツ 第15回 理学療法士教育とスーパービジョン				
履修上の注意	理学療法の知識・技術を学ぶ上での基礎となる授業である。今後の専門科目で行われる多くの課題学習や問題解決型学習のための出発点でもあるので、その準備として、少しの疑問でもあれば積極的に質問して解決していく姿勢を身に付けていくこと。				
成績評価	受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する				
テキスト	参考図書、その他 「運動療法学テキスト」改訂第2版 南江堂 基礎理学療法学 医歯薬出版株式会社				

講義名	基礎理学療法学Ⅱ										
講師名	福井直樹（実務経験者）										
学年	1	年	学期	後	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、理学療法における基礎的な構成要素を理解できることとする。授業内容は、評価から治療に至るまでの課程や、チーム医療の役割について理解を深めていくことである。										
授業計画	第1回 生体の形 第2回 生体の動き 第3回 生体力学 第4回 生体力学（力と運動の法則） 第5回 生体力学（エネルギー） 第6回 生体力学（角度、角速度、角加速度） 第7回 筋力と筋持久力（筋力） 第8回 筋力と筋持久力（筋持久力） 第9回 認知/運動 第10回 歩行 第11回 関節可動域障害 第12回 筋力低下/筋細胞の壊死と再生/創傷/靱帯損傷 第13回 神経損傷/脳の可塑性と運動学習 第14回 運動技能と運動学習（運動技能） 第15回 運動技能と運動学習（運動学習）										
履修上の注意	基礎理学療法学Ⅱは、機能形態学と理学療法を結び付けていく科目といえる。両者を行き来しながら、学習内容を確認したり、統合し、理学療法士としての基礎力を高めること。										
成績評価	受講態度(20%)，定期試験(80%)で判断する										
テキスト	参考図書. その他 『基礎理学療法学』、大橋ゆかり編、「医歯薬出版」、2012年、第1版 標準理学療法学 基礎理学療法学 医学書院										

講義名	理学療法研究論										
講師名	松永秀俊（実務経験者）										
学年	2	年	学期	後	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	近年の医療界の潮流として科学的根拠に基づく理学療法の実践が重要視され、保険算定の中でも世界的に根拠のない治療は算定外となったり減算となったりしてきている。本講義では理学療法の科学的検証を行うことを目標とし、研究の総論に始まり研究計画の立案から統計学的分析手法の選択、研究の実施、論文の書き方までを実践することで学修する。										
授業計画	第1回　オリエンテーション、臨床研究の基礎概念を学ぶ 第2回　統計学の基礎概念、データベースの収集・構築の方法について学ぶ。 第3回　群間データの分析方法を学ぶ。 第4回　多群間データ、対応データの分析方法を学ぶ。 第5回　回帰と相関について学ぶ。 第6回　解析結果のまとめ方、表現方法（グラフ等）を学ぶ。 第7回　研究デザイン、倫理、個人情報、研究計画書の書き方について学ぶ。 第8回　文献検索、論文抄読について学ぶ。 第9回　理科系文章、図・表の作り方、論文作成について学ぶ。 第10回　三次元動作解析、床反力計、筋電図計について学ぶ。 第11回　課題作成①情報収集 第12回　課題作成②情報収集 第13回　課題作成③レポート作成 第14回　課題作成④レポート作成 第15回　課題作成⑤レポート作成										
履修上の注意	様々なデータを実際に分析し、方法を学ぶ。 また、グループで課題を作成しレポートを提出してもらう。グループ内だけでなく、たくさんの人とディスカッションを行いレポート作成を行うこと。										
成績評価	受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する										
テキスト	参考図書、その他 標準理学療法学 基礎理学療法学 医学書院 理学療法学 医歯薬出版株式会社 『基礎理学療法学』、大橋ゆかり編、「医歯薬出版」、 2012年、第1版「運動療法学テキスト」改訂第2版 南江堂										

講義名	臨床理学療法学									
講師名	吉崎邦夫（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、理学療法の臨床において、発症時のエピソードとその後の経過、現在の症状と理学療法検査・測定結果を統合し解釈して臨床推論を行い、問題点の解決に向けて、目標設定、プログラムの立案を行う、理学療法評価のプロセスを有痛疾患のケーススタディーを通して学ぶ。授業内容はそれぞれのケースにおける評価から治療までの課程を考案し、ゴール設定を各グループでまとめ発表し理解を深める。									
授業計画	第1回 障害概論 第2回 医学的リハにおける障害評価とその手順 第3回 痛みのとらえ方 第4回 痛みのとらえ方（臨床推論：クリニカルリーズニング） 第5回 有痛性疾患のケーススタディⅠ（肩関節）演習；症例理解 第6回 有痛性疾患のケーススタディⅠ（肩関節）演習；課題解決 第7回 有痛性疾患のケーススタディⅡ（肩関節）演習；症例理解 第8回 有痛性疾患のケーススタディⅡ（肩関節）演習；課題解決 第9回 有痛性疾患のケーススタディⅢ（腰部）演習；症例理解 第10回 有痛性疾患のケーススタディⅢ（腰部）演習；課題解決 第11回 有痛性疾患のケーススタディⅣ（腰部）演習；症例理解 第12回 有痛性疾患のケーススタディⅣ（腰部）演習；課題解決 第13回 有痛性疾患のケーススタディⅤ（下肢）演習；症例理解 第14回 有痛性疾患のケーススタディⅤ（下肢）演習；課題解決 第15回 ケーススタディの総括									
履修上の注意	学生全員参加型の授業展開をする。その中で実際にケースの評価を実施し、そのプロセスを評価する。									
成績評価	受講態度(20%)，定期試験(80%)で判断する									
テキスト	参考図書. その他 痛み学 -臨床のためのテキスト-熊澤孝朗訳 名古屋大学出版会 基本編・ケースで学ぶ理学療法臨床思考 第2版 文光堂									

講義名	理学療法臨床診断学										
講師名	田中浩基（実務経験者）										
学年	3	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	理学療法士において、「診断」という言葉は通常使われるものではない。しかし、医師が行う診断とはちがひ、対象者の「生活機能」についてどのような状態であるかを判断し、そこから治療方針を策定する必要が臨床では多々ある。血液検査、レントゲン・CT・MRIなどの読み取り、整形外科テストから損傷の有無を判断する。バランス能力などの観察技術の経験し学習する。「生活機能診断」を行うために必要な知識と技術の習得を目指す。										
授業計画	第1回	理学療法における診断とはなにか？									
	第2回	カルテの読み方・書き方									
	第3回	医学所見の読み方 血液検査									
	第4回	医学所見の読み方 生化学検査									
	第5回	画像所見 レントゲン読影総論									
	第6回	画像所見 レントゲン読影各論									
	第7回	画像所見 MRI読影（脳）									
	第8回	画像所見 MRI読影（運動器）									
	第9回	画像所見 エコー読影									
	第10回	整形外科テスト 上肢									
	第11回	整形外科テスト 下肢									
	第12回	バランス能力の検査と評価									
	第13回	理学療法診断について 機能・構造レベル									
	第14回	理学療法診断について 活動／参加レベル									
	第15回	運動機能・活動診断									
履修上の注意	様々な検査所見を理学療法士の視点で理解し判断することは臨床場面で求められる。そのために必要なことを学ぶ。 予習復習をしっかりと行い講義に臨むこと。										
成績評価	受講態度(20%)，定期試験(80%)で判断する										
テキスト	参考図書．その他										
	運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略 医学書院										
	そのとき理学療法士はこう考える 医学書院										

講義名	理学療法評価学総論Ⅰ				
講師名	吉崎邦夫（実務経験者）				
学年	1	年	学期	後 期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	理学療法における評価の目的とその具体的な検査方法について理解し実施できるようにする。具体的には、理学療法評価の方法、病歴のとり方、形態測定、関節可動域測定（ROM-T）、徒手筋力テスト（MMT）について決められている方法通りに施行し、代償運動等に注意して正確にできるようにすることである。				
授業計画	第1回 評価の目的・過程、ICIDH、ICF 第2回 トップダウン評価、ボトムアップ評価、記録、問題点リストの整理の仕方 第3回 病歴のとり方、現症のとり方 第4回 形態測定の意義と目的、形態測定の実際、肢長・周径の測定 第5回 形態測定の実際（肢長・周径） 第6回 関節可動域測定の定義と目的、測定上の留意事項、運動方向別測定方法の理解（基本軸、移動軸、参考可動域、注意点） 第7回 運動方向別測定方法の理解（基本軸、移動軸、参考可動域、注意点） 第8回 関節可動域測定の実際（上肢）、運動方向別測定方法の理解（基本軸、移動軸、参考可動域、注意点） 第9回 関節可動域測定の実際（下肢）、運動方向別測定方法の理解（基本軸、移動軸、参考可動域、注意点） 第10回 関節可動域測定の実際（体幹）、運動方向別測定方法の理解（基本軸、移動軸、参考可動域、注意点） 第11回 筋力検査の目的・分類・実際、徒手筋力検査の意義・目的・判定基準、抵抗のかけ方、検査上の注意事項 第12回 代償運動、運動方向と主働作筋、神経支配の結びつき 課題：ROMについて 第13回 徒手筋力検査法の実際（上肢：肩関節、肘関節、手関節） 第14回 徒手筋力検査法の実際（下肢：股関節、膝関節、足関節） 第15回 徒手筋力検査法の実際（頸部・体幹） 実技試験				
履修上の注意	予習復習をしっかりと行い、積極的に講義に参加すること。				
成績評価	提出課題(30%)、実技試験(30%)、定期試験(40%)で判断する				
テキスト	参考図書、その他 運動器疾患の「なぜ？」わかる臨床解剖学 医学書院 理学療法評価学 金原出版株式会社 標準理学療法学 医学書院				

講義名	理学療法評価学総論Ⅱ				
講師名	吉崎邦夫（実務経験者）				
学年	2	年	学期	前期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	理学療法における評価の目的とその具体的な検査方法について理解し実施できるようにする。具体的には、整形外科的検査、知覚検査、反射検査、協調性検査、筋トーヌス検査、片麻痺運動機能検査、高次脳機能検査、SIAS(Stroke Impairment Assessment Set)、FIM(Functional Independence Measure)等を決められている方法通りに施行し、代償運動等に注意して正確にできるようにすることを学ぶ。				
授業計画	第1回 整形外科的検査 疾患別整形外科的徒手検査の理解、検査方法の理解 第2回 知覚検査 知覚の分類、検査の手順と注意事項、検査測定を理解 第3回 反射検査 目的、手順と注意事項、深部・表在・病的反射検査測定を理解 第4回 協調性検査 目的、ADL上の現象、検査測定を理解 第5回 筋トーヌス検査 目的、筋トーヌスの異常、検査測定を理解 第6回 片麻痺機能検査 運動障害の特徴、Brunnstromの回復段階、検査測定を理解 第7回 SIASの目的を理解 第8回 SIASの検査方法の理解 第9回 高次脳機能検査 失語・失行・失認の理解 第10回 高次脳機能検査 失語・失行・失認の理解 第11回 脳神経検査 目的を理解 第12回 脳神経検査 検査測定を理解 第13回 呼吸循環機能検査 目的、正常値、異常値、肺気量分画の理解、運動療法基準の理解 第14回 正常歩行の理解、歩行分析 第15回 FIMの目的、特徴の理解、FIM18項目の採点方法の理解 課題：1～8 実技試験				
履修上の注意	予習復習をしっかりと行い、積極的に講義に参加すること。				
成績評価	提出課題(30%)、実技試験(30%)、定期試験(40%)で判断する				
テキスト	参考図書、その他				
	理学療法評価学 文光堂				
	標準理学療法学 医学書院				

講義名	身体機能評価学実習Ⅰ					
講師名	松永秀俊（実務経験者）					
学年	2	年	学期	前期	時間	30 時間 必修 1 単位
講義目標	授業目標は、身体運動について、重力や加速度、モーメントやてこの原理など力学的に理解し、基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の分析に利用できる重心動揺計、ビデオカメラや筋電図装置など各種の計測機器とその測定方法について使用例を提示し、客観的な動作観察・分析の方法について学ぶ。					
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　物体の落下運動について理解する。 第3回　落下運動についてパソコンを使用しシミュレーションする 第4回　モーメントの計算を理解する。 第5回　人体におけるモーメントを関節と筋張力の関係に応用する。小テスト：モーメント 第6回　テコの種類と物体の釣合について学ぶ。 第7回　体重心の計算方法について学ぶ。重心動揺計の利用について 第8回　ビデオカメラを用いた動作分析の原理を学ぶ。 第9回　スクワット動作をビデオ撮影しステックピクチャーに描く。 第10回　反応時間とは何か、その意義について学ぶ 第11回　パソコンを用いた反応時間測定について学ぶ 第12回　筋電図の概要と表面筋電図の測定法について学ぶ 第13回　筋電図実習(1) 歩行課題：筋電図の理解 第14回　筋電図実習(2) 走行課題：筋電図の理解 第15回　歩行の観察法について学ぶ					
履修上の注意						
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する					
テキスト	参考図書、その他 人体の構造と機能 医学書院 身体運動学 MEDICL VIEW					

講義名	身体機能評価学実習Ⅱ											
講師名	松永秀俊（実務経験者）											
学年	2	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位	
講義目標	授業目標は、基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の各動作において、理解を深める。授業内容は、正常の寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行の観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析などについて学習する。三次元動作解析装置を用いた動作分析を学ぶ。											
授業計画	第1回	オリエンテーション										
	第2回	寝返り動作にすいて学ぶ										
	第3回	起き上がり動作について学ぶ										
	第4回	立位アライメントについて学ぶ。										
	第5回	姿勢の変換に伴う反射について学ぶ										
	第6回	姿勢の分析法について学ぶ。										
	第7回	立位姿勢のアライメントを分析する。										
	第8回	立ち直り反応と傾斜反応について学ぶ							小テスト：アラインメント			
	第9回	3次元動作解析装置の原理を学ぶ。							課題：動作解析データ提出			
	第10回	3次元動作解析装置で床から立ち上がり動作を測定する。							課題：動作解析データ提出			
	第11回	3次元動作解析装置で椅子から立ち上がり動作を測定する。							課題：動作解析データ提出			
	第12回	3次元動作解析装置で歩行動作を測定する。							課題：動作解析データ提出			
	第13回	3次元動作解析装置で走行動作を測定する。							課題：動作解析データ提出			
	第14回	3次元動作解析装置のデータ分析を学ぶ。							課題：動作解析データ提出			
	第15回	まとめ										
履修上の注意												
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する											
テキスト	参考図書. その他											
	動作分析 臨床活用講座 MEDICL VIEW											
	身体運動学 MEDICL VIEW 姿勢動作歩行分析 羊土社											

講義名	理学療法評価学実習Ⅰ										
講師名	松井有史（実務経験者）										
学年	2	年	学期	後	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、脳血管疾患患者を中心とした基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の各動作において、理解を深める。授業内容は、疾患別の寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行の観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析など特徴の理解を深め学習する。4年次の理学療法総合臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE）の説明を行い、臨床的な評価の練習ができるようにする。										
授業計画	第1回 中枢神経系の機能と構造 第2回 脳画像の読み方（CT、MRI） 第3回 脳血管障害の病態 第4回 脳血管障害に対する急性期治療、医学的管理 第5回 脳卒中片麻痺者の運動障害の特徴 第6回 脳卒中片麻痺に対する評価―神経学的評価― 第7回 脳卒中片麻痺に対する評価―姿勢・動作分析― 第8回 脳卒中片麻痺者に対する理学療法―寝返り動作を中心に― 小テスト：動作分析他 第9回 脳卒中片麻痺者に対する理学療法―起き上がり動作を中心に― 第10回 脳卒中片麻痺者に対する理学療法―座位・起き上がり動作を中心に― 第11回 脳卒中片麻痺者に対する理学療法―立ち上がり・立位動作を中心に― 第12回 脳卒中片麻痺者に対する理学療法―歩行を中心に― 第13回 OSCE解説―脳卒中片麻痺者に対する理学療法―① 第14回 OSCE練習―脳卒中片麻痺者に対する理学療法―② 第15回 OSCE練習―脳卒中片麻痺者に対する理学療法―③										
履修上の注意											
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する										
テキスト	参考図書、その他 基本動作の評価と治療アプローチ MEDICL VIEW 筋肉の基本としくみ マイナビ 脳卒中ビジュアルテキスト 医学書院 動作分析 臨床活用講座 MEDICL VIEW 理学療法学ゴールド・マスター・テキスト 理学療法評価法 MEDICL VIEW										

講義名	理学療法評価学実習Ⅱ				
講師名	福井直樹（実務経験者）				
学年	2	年	学期	後 期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	授業目標は、整形外科疾患患者を中心とした基本動作（寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行）の各動作において、理解を深める。授業内容は、疾患別の寝返り、起き上がり、立ち上がり、立位、歩行の観察、姿勢・動作・行為の観察視点と分析など特徴の理解を深め学習する。4年次の理学療法総合臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE）の説明を行い、臨床的な評価の練習ができるようにする。				
授業計画	第1回 運動器の機能と構造 第2回 画像の読み方（x-p） 第3回 運動器疾患の病態 第4回 運動器疾患に対する急性期治療、医学的管理 第5回 運動器疾患の運動障害の特徴 第6回 運動器疾患に対する評価－神経学的評価－ 第7回 運動器疾患に対する評価－姿勢・動作分析－ 第8回 運動器疾患に対する理学療法－寝返り動作を中心に－ 小テスト：評価について 第9回 運動器疾患に対する理学療法－起き上がり・坐位動作を中心に－ 第10回 運動器疾患に対する理学療法－立ち上がり・立位動作を中心に－ 第11回 運動器疾患に対する理学療法－起き上がり動作を中心に－ 第12回 運動器疾患に対する理学療法－歩行を中心に－ 第13回 OSCE解説－運動器疾患に対する理学療法－ 第14回 OSCE練習－運動器疾患に対する理学療法－① 第15回 OSCE練習－運動器疾患に対する理学療法－②				
履修上の注意					
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する				
テキスト	参考図書. その他 運動器疾患の「なぜ？」がわかる臨床解剖学 医学書院上肢 運動器疾患の診かた・考えかた 医学書院 運動器疾患の機能解剖に基づく評価と解釈 運動と医学の出版社				

講義名	応用評価学演習									
講師名	石橋誠隆（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	授業目標は、3年次までに修得した評価法とともに海外で用いられる評価法も取り入れ、さらに患者の状態の理解を把握する。各種検査の注意点を理解し、学生同士で正確に実施する。その他、臨床場面を意識して、ペーパーペイシェントを用いた演習で障害構造について演習を行う。必要に応じてグループ学習を行い、他者との関わりの中で思考を深める。4年次の理学療法総合臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE）の説明を行う。									
授業計画	第1回	応用評価学演習の目指すところ								
	第2回	脳血管症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第3回	脳血管症例に対する評価方法、統合解釈								
	第4回	運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第5回	運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する評価方法、統合解釈								
	第6回	神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第7回	神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する評価方法、統合解釈								
	第8回	運動器疾患（大腿骨頸部骨折など）症例に対する臨床思考過程、評価方法								
	第9回	運動器疾患（大腿骨頸部骨折など）症例に対する評価方法、統合解釈								
	第10回	動作観察・分析①（逸脱動作を抽出する）							課題：分析レポート	
	第11回	動作観察・分析②（逸脱動作を分析する）							課題：分析レポート	
	第12回	動作観察・分析③（分析結果から機能障害を推論する）							課題：分析レポート	
	第13回	動作観察・分析④（逸脱動作から機能障害を推論する）							課題：分析レポート	
	第14回	精神疾患の捉え方・症例に対する対応							小テスト：動作分析	
	第15回	理学療法総合臨床実習における客観的臨床能試験（OSCE）について								
履修上の注意	不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）がないように注意する。									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	参考図書. その他 リハビリテーションにおける評価Ver.3 医歯薬出版株式会社									

講義名	運動療法学										
講師名	山下裕（実務経験者）										
学年	2	年	学期	後	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、整形疾患や脊髄損傷による生活障害を持った人への理学療法を説明できることおよび、疾患の理解をし、評価と治療の構造を説明できることとする。授業では各種疾患の理解を、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、治療実施に至る思考プロセスを提示し理解を促すことを中心に授業展開を行なう。また、治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、最新知見に基づいた方法論を説明していく。										
授業計画	第1回	運動療法学総論									
	第2回	関節可動域制限に対する運動療法①（関節の構造と運動）									
	第3回	関節可動域制限に対する運動療法②（関節可動域制限因子）									
	第4回	関節可動域制限に対する運動療法③（関節可動域運動）									
	第5回	関節可動域制限に対する運動療法④（伸張運動）									
	第6回	筋力低下に対する運動療法①（筋力低下の分類）									
	第7回	筋力低下に対する運動療法②（過負荷・特異性の原則）									
	第8回	筋力低下に対する運動療法③（筋力増強運動）									
	第9回	持久力低下に対する運動療法①（筋持久力）								小テスト：ROM・筋力	
	第10回	持久力低下に対する運動療法②（全身持久力）									
	第11回	代謝機能障害に対する運動療法									
	第12回	全身調整に対する運動療法									
	第13回	運動麻痺に対する運動療法①（中枢性、末梢性）									
	第14回	運動麻痺に対する運動療法②（協調性運動障害）									
	第15回	まとめ									
履修上の注意	講義形式で行う。										
成績評価	小テスト(20%)，定期試験(80%)で判断する										
テキスト	柳澤 健 編集「理学療法学ゴールドマスターテキスト2 運動療法学」メジカルビュー社 運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 文光堂										

講義名	運動療法学実習Ⅰ										
講師名	松井有史（実務経験者）										
学年	3	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、臨床現場で多く経験する、異常歩行の病態と分類、脳卒中片麻痺患者、パーキンソン病、運動失調、変形性関節疾患、バランス障害、呼吸障害、高齢者の運動障害の病態・運動の分析について理解できるように演習を行う。										
授業計画	第1回 異常歩行の病態と類型分類 第2回 異常歩行の運動分析と演習 第3回 脳卒中片麻痺患者の異常歩行パターンの分析と演習1（分析方法） 第4回 脳卒中片麻痺患者の異常歩行パターンの分析と演習2（演習） 第5回 脳卒中片麻痺患者の歩行障害の病態と装具の効果 第6回 脳卒中片麻痺患者の立ち上がり動作に対する病態運動の分析と運動療法 第7回 パーキンソン病の立ち上がり・立位・歩行における典型的病態運動の分析と演習 1（分析方法） 第8回 パーキンソン病の立ち上がり・立位・歩行における典型的病態運動の分析と演習 2（演習） 第9回 運動失調の協調運動障害における病態運動の分析と演習 小テスト：1～8 第10回 変形性関節疾患の歩行障害 第11回 バランス障害（立位・座位）の病態運動の分析と演習 1（分析方法） 第12回 バランス障害（立位・座位）の病態運動の分析と演習 2（演習） 第13回 呼吸の病態運動 第14回 高齢者の運動障害と特徴 第15回 まとめ										
履修上の注意											
成績評価	小テスト(20%) レポート課題(20%)、定期試験(60%)										
テキスト	参考図書、その他 ペリー 歩行分析(正常歩行と異常歩行) 医歯薬出版 運動学実習第3版 医歯薬出版株式会社										

講義名		運動療法学実習Ⅱ									
講師名		福井直樹（実務経験者）									
学年	3	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標		授業目標は、エビデンスを踏まえた筋力トレーニングの基礎知識を理解し、各疾患への応用を図り知識を深めることである。授業内容は、筋力トレーニングに関して知識を深め実技を通して理学療法の治療技術を学習する。									
授業計画		第1回 オリエンテーション 第2回 筋収縮メカニズム 第3回 トレーニングの3大原理 第4回 筋力強化と骨格筋の形状 第5回 筋肥大・筋萎縮・筋疲労 第6回 OKC・CKCの違いについて（実技含む） 第7回 運動療法におけるリスク管理 第8回 筋力の改善プログラム 第9回 筋持久力の改善プログラム 第10回 筋力トレーニングのエビデンス 第11回 各疾患における筋力トレーニングのあり方（腰痛） 第12回 各疾患における筋力トレーニングのあり方膝（膝OA） 第13回 各疾患における筋力トレーニングのあり方（高齢者）①上肢 第14回 各疾患における筋力トレーニングのあり方（高齢者）②下肢 第15回 まとめ 小テスト：1～8									
履修上の注意		専門的な講義になるので、基礎知識を自己学習で補うこと。講義態度が悪い人は、欠席扱いとすること。									
成績評価		小テスト(20%) レポート課題(20%)、定期試験(60%)									
テキスト						参考図書、その他					
標準理学療法学専門分野 運動療法学 総論						運動療法学 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト					
プリント配布						必要に応じて書籍を紹介					

講義名	物理療法学実習										
講師名	福井直樹（実務経験者）										
学年	2	年	学期	後	期	時間	30	時間	必修	2	単位
講義目標	物理療法に関連した痛みの生理学と病理学、物理的刺激が生体にあたえる影響について、エビデンスを学習しながら、ホットパック、寒冷療法、超短波療法、極超短波療法、超音波療法、光線療法、電気刺激療法、振動刺激療法等の各種治療技術の解説、実習を行う。臨床での様々な対象者に応じた治療手段の選択・物理療法実践を目標とする。										
授業計画	第1回 物理療法総論 第2回 物理療法を体験する 第3回 炎症と修復 第4回 痛みのメカニズム① 第5回 痛みのメカニズム② 第6回 運動制限・筋トーン異常 第7回 温熱・寒冷刺激が生体を与える影響 第8回 電気刺激が生体を与える影響 第9回 超音波が生体を与える影響 第10回 光線が生体を与える影響 第11回 エネルギー変換刺激が生体を与える影響 第12回 力学的刺激が生体を与える影響 第13回 水の圧力や抵抗などが生体を与える影響 第14回 バイオフィードバック療法 第15回 まとめ										
履修上の注意	専門的な講義になるので、基礎知識を自己学習で補うこと。 実習ができる服装で参加すること。										
成績評価	成績評価はレポート課題(20%)定期試験(80%)で判定する										
テキスト	参考図書. その他 物理療法学 金原出版株式会社 エビデンスから身につける物理療法 羊土社 庄本康治／編 EBM物理療法 原著第4版 医歯薬出版										

講義名	物理療法学実習										
講師名	福井直樹（実務経験者）										
学年	2	年	学期	後	期	時間	30	時間	必修	2	単位
講義目標	物理療法に関連した痛みの生理学と病理学、物理的刺激が生体にあたえる影響について、エビデンスを学習しながら、ホットパック、寒冷療法、超短波療法、極超短波療法、超音波療法、光線療法、電気刺激療法、振動刺激療法等の各種治療技術の解説、実習を行う。臨床での様々な対象者に応じた治療手段の選択・物理療法実践を目標とする。										
授業計画	第16回 関節可動域運動 総論 治療と効果 第17回 ホットパック 第18回 パラフィン浴 第19回 水治療法 第20回 超短波療法 第21回 極超短波療法 第22回 超音波療法 第23回 寒冷療法 第24回 光線療法 第25回 電気刺激療法(痛みに対するTENS) 第26回 電気刺激療法(筋力増強を目的としたEMS) 第27回 振動刺激療法 第28回 臨床における物理療法の用い方 第29回 運動療法の効果を高める物理療法の利用法 第30回 まとめ										
履修上の注意	専門的な講義になるので、基礎知識を自己学習で補うこと。 実習ができる服装で参加すること。										
成績評価	成績評価はレポート課題(20%) 定期試験(80%) で判定する										
テキスト	参考図書. その他 物理療法学 金原出版株式会社 エビデンスから身につける物理療法 羊土社 庄本康治／編 EBM物理療法 原著第4版 医歯薬出版										

講義名	運動器障害理学療法学実習						
講師名	松永秀俊（実務経験者）						
学年	3	年	学期	後 期	時間	60 時間	必修 2 単位
講義目標	授業目標は、部位別の運動器障害の理学療法を実施するために必要な検査、評価、治療技能を身につける。授業内容は、筋骨格系に生じる障害の捉え方（評価）、その原因特定までの分析過程、原因を取り除くための介入手技について実習および演習を通じて学習する。						
授業計画	第1回 運動器障害の概要と捉え方 第2回 骨・軟骨障害（1）変形性関節症（総論） 第3回 骨・軟骨障害（2）変形性脊椎症 第4回 骨・軟骨障害（3）変形性膝関節症（保存療法） 第5回 骨・軟骨障害（4）変形性膝関節症（手術療法） 第6回 骨・軟骨障害（5）変形性膝関節症（高齢者プログラム） 第7回 骨・軟骨障害（6）変形性股関節症（保存療法） 第8回 骨・軟骨障害（7）変形性股関節症（手術療法） 第9回 関節軟部組織性障害（1）靱帯損傷・半月板損傷（総論） 第10回 関節軟部組織性障害（2）前十字靱帯・後十字靱帯損傷 第11回 関節軟部組織性障害（3）膝内側側副靱帯、半月板および足部 第12回 関節外側側副靱帯損傷、関節構造に由来する障害（1）脱臼 第13回 関節構造に由来する障害（2）動揺関節、関節不安定性 第14回 骨性障害（1）骨折 第15回 骨性障害（2）大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術前、術後）						
履修上の注意	理学療法の基本となるので、知識は前もってしっかり学習し、授業では実技を中心に学びふこと。						
成績評価	レポート課題(30%)、定期試験(70%)で判断する						
テキスト	参考図書. その他						
シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト改訂第2版 その他随時授業内で配布する。				水上昌文、運動療法基礎技術（CD-ROM） 居村茂幸（編）：筋骨格障害系理学療法学			

講義名	運動器障害理学療法学実習						
講師名	松永秀俊（実務経験者）						
学年	3	年	学期	後 期	時間	60 時間	必修 2 単位
講義目標	授業目標は、部位別の運動器障害の理学療法を実施するために必要な検査、評価、治療技能を身につける。授業内容は、筋骨格系に生じる障害の捉え方（評価）、その原因特定までの分析過程、原因を取り除くための介入手技について実習および演習を通じて学習する。						
授業計画	第16回 骨性障害（3）大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術後回復期） 第17回 骨性障害（4）大腿骨頸部骨折、転子部骨折（高齢者プログラム） 第18回 骨性障害（5）下肢の骨折 第19回 骨性障害（6）上肢の骨折 第20回 骨性障害（7）脊椎の骨折 第21回 筋・軟部組織性障害（1）概論 第22回 筋・軟部組織性障害（2）肩関節周囲炎 第23回 筋・軟部組織性障害（3）肩腱板損傷（保存療法、手術療法） 第24回 Motor unit性障害 第25回 脊椎性障害（1）頸椎椎間板ヘルニア、頸部脊椎症、頸部後縦靱帯骨化症 第26回 脊椎性障害（2）（急性腰痛）腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症 第27回 脊椎性障害（3）慢性腰痛症 第28回 複合障害（1）関節リウマチ（1） 第29回 複合障害（2）関節リウマチ（2） 第30回 切断の理学療法						
履修上の注意	理学療法の基本となるので、知識は前もってしっかり学習し、授業では実技を中心に学びふこと。						
成績評価	レポート課題(30%)、定期試験(70%)で判断する						
テキスト	参考図書. その他						
シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト改訂第2版 その他随時授業内で配布する。				水上昌文、運動療法基礎技術（CD-ROM） 居村茂幸（編）：筋骨格障害系理学療法学			

講義名	スポーツ障害理学療法学実習				
講師名	河西紀秀（実務経験者）				
学年	3	年	学期	後 期	時間 30 時間 選択 1 単位
講義目標	授業目標は、スポーツ理学療法について理解する、医療現場からスポーツ競技復帰などについて理解する。競技特性を考慮したリハビリテーションプログラムの作成ができるようになる。授業内容は実技を交え理解を深める。				
授業計画	第1回　スポーツ外傷・損傷総論 第2回　成長期スポーツ外傷・損傷の特性 第3回　スポーツ現場における救急・救命処置 第4回　スポーツと栄養・休息 第5回　上肢のスポーツ外傷・損傷 第6回　下肢のスポーツ外傷・損傷 第7回　体幹のスポーツ外傷・損傷 第8回　スポーツ外傷・損傷予防と外傷・損傷対策 第9回　スポーツ外傷・損傷予防（テーピング） 第10回　スポーツ外傷・損傷対策（トレーニング） 第11回　パフォーマンス向上トレーニング 第12回　スポーツ理学療法の理論と実際 第13回　膝関節のスポーツ外傷・損傷に対する理学療法戦略 第14回　スポーツ外傷・損傷予防における体幹部の重要性 第15回　体幹バランスチェックと強化法 小テスト：1～8				
履修上の注意	講義と実技を織り交ぜながら進めていく。可能な限り画像・映像を使用して理解を深めるようにする。				
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する				
テキスト	参考図書、その他				
寺山和雄 医学書院	監修 辻陽雄	編 「標準整形外科学」	必要に応じて資料を配布。		

講義名	中枢神経障害理学療法学実習				
講師名	非常勤講師（実務経験者）				
学年	3	年	学期	後 期	時間 30 時間 必修 2 単位
講義目標	中枢神経障害に対する理学療法は脳解剖と神経生理、中枢神経障害の基礎知識、最新の内科的・外科的治療、画像データの分析などをふまえて病態を理解する必要がある。また、早期離床や課題特異的訓練等、最新の治療法にも精通する必要もある。本講義では前半に理論を後半に実習を行い、中枢神経障害患者に対する理学療法の理論と技術について学ぶ。				
授業計画	第1回 総 論 中枢神経障害の全容 第2回 片麻痺 片麻痺の原因、脳血管障害とは 第3回 片麻痺 脳血管障害の診断、急性期治療 第4回 片麻痺 片麻痺患者の評価（1） 第5回 片麻痺 片麻痺患者の評価（2） 第6回 片麻痺 重症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際 （その1） 第7回 片麻痺 重症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際 （その2） 第8回 片麻痺 演習1A グループ討議 B 症例の提示によるロールプレイ 第9回 片麻痺 軽症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際 （その1） 第10回 片麻痺 軽症片麻痺例に対する回復期理学療法の実際 （その2） 第11回 片麻痺 演習2 A グループ討議 B 症例の提示によるロールプレイ レポート：分析レポート 第12回 片麻痺 日常生活における身体機能の活用 （生活機能の向上） 第13回 片麻痺 実習1 片麻痺者の動作の特徴・基本動作・車いすの駆動・装具、三角巾の装着・介助歩行など 第14回 片麻痺 片麻痺者にみられる合併症とその対策 第15回 片麻痺 高次脳機能障害・嚥下障害と理学療法				
履修上の注意	実習時には実習のできる服装を準備すること。 各自で復習を行い。疑問点については早期に解決する。				
成績評価	レポート課題(20%)、定期試験(80%)で判断する				
テキスト	シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト中枢神経障害理学療 法学テキスト 改訂第3版				
参考図書、その他	リハに役立つ脳画像 MEDICL VIEW 高次機能障害学 医歯薬出版株式会社 脳卒中理学療法の理論と技術 原 寛 美 MEDICAL VIEW				

講義名	中枢神経障害理学療法学実習										
講師名	非常勤講師（実務経験者）										
学年	3	年	学期	後	期	時間	30	時間	必修	2	単位
講義目標	中枢神経障害に対する理学療法は中枢神経解剖と神経生理、中枢神経障害の基礎知識、最新の内科的・外科的治療、画像データの分析などをふまえて病態を理解する必要がある。また、早期離床や課題特異的訓練等、最新の治療法にも精通する必要もある。本講義では前半に理論を後半に実習を行い、中枢神経障害患者に対する理学療法の理論と技術について学ぶ。										
授業計画	第16回 運動失調 運動失調とは 第17回 運動失調 小脳性運動失調の理学療法 第18回 運動失調 演習3 A グループ討議 B 症例の提示によるロールプレイ 第19回 パーキンソン症状 パーキンソン病とは 第20回 パーキンソン症状 パーキンソン病の理学療法 第21回 パーキンソン症状 演習4 A グループ討議 B 症例提示によるロールプレイ レポート：脳の可逆性 第22回 四肢麻痺・対麻痺 脊髄損傷の原因、脊髄の解剖・機能 第23回 四肢麻痺・対麻痺 自律神経と脊髄損傷の随伴・合併症 第24回 四肢麻痺・対麻痺 脊髄損傷の評価 第25回 四肢麻痺・対麻痺 四肢麻痺の理学療法（急性期） 第26回 四肢麻痺・対麻痺 四肢麻痺の理学療法（回復期） 第27回 四肢麻痺・対麻痺 対麻痺の理学療法（急性期） 第28回 四肢麻痺・対麻痺 対麻痺の理学療法（回復期） 第29回 四肢麻痺・対麻痺 演習3 基本動作・車いす応用動作・対麻痺者の立位・歩行動作 第30回 脊髄損傷者の社会参加とスポーツプログラム										
履修上の注意	実習時には実習のできる服装を準備すること。 各自で復習を行い。疑問点については早期に解決する。										
成績評価	レポート課題(20%)、定期試験(80%)で判断する										
テキスト	シンブル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト中枢神経障害理学療法学テキスト 改訂第3版										
参考図書、その他	リハに役立つ脳画像 MEDICL VIEW 高次機能障害学 医歯薬出版株式会社 脳卒中理学療法の理論と技術 原 寛 美 MEDICAL VIEW										

講義名	神経筋疾患理学療法学実習										
講師名	福井直樹（実務経験者）										
学年	3	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	理学療法の対象となる神経・筋疾患の病態や症状を踏まえた疾患に対する評価、治療、効果判定について学習・実技練習を行う。障がい像を把握するための思考展開の方法を学習する。将来にわたって、科学的なアプローチで患者の疾患や病態・障害を理解できるように常に医学や医療技術の発展に関心を持てるようになることを目標とする。										
授業計画	第1回 脊髄小脳変性症の病態・症状 第2回 脊髄小脳変性症の評価・治療 第3回 脊髄小脳変性症の予後・症例 第4回 筋萎縮性側索硬化症の病態・症状検討 第5回 筋萎縮性側索硬化症の評価・治療 第6回 筋萎縮性側索硬化症の予後・症例検討 第7回 多発性硬化症の病態・症状・予後 第8回 多発性硬化症の評価・治療・予後・症例検討 第9回 グラン・バレー症候群の病態・症状 第10回 グラン・バレー症候群の評価・治療・予後・症例検討 第11回 シャルコー・マリー・トゥース病の病態・症状・治療・予後・症例検討 第12回 多発性筋炎・皮膚筋炎の病態・症状・治療・予後・症例検討 第13回 筋ジストロフィー（筋強直性ジストロフィー・他）の病態・症状・治療・予後・症例検討 第14回 末梢神経障害（糖尿病神経障害・顔面麻痺・他） 第15回 ポストポリオ症候群・重症筋無力症・その他の神経・筋疾患										
履修上の注意	予習復習をしっかりと行い講義に臨むこと。										
成績評価	レポート課題(20%)、定期試験(80%)で判断する										
テキスト	参考図書、その他										
臨床につながる 神経・筋疾患 花山 耕三 著 医歯薬出版						田崎義昭ら「ベッドサイドの神経の見方」改訂16版 南山堂					

講義名	系統別・治療手技演習				
講師名	松永秀俊（実務経験者）				
学年	3	年	学期	後 期	時間 30 時間 選択 1 単位
講義目標	授業目標は、理学療法における重要な治療手技（マニュアルセラピー）を実施するために各系統別・治療手技を理解し、解剖学、生理学、運動学などの知識をもとに症候に適した治療手技を選択し、実施できることである。授業内容としては、1. 各治療手技の基礎理論を理解し、説明することができる。2. 骨・筋・軟部組織を触診し、各種治療手技をもちいて基礎的な評価・実践ができることである。				
授業計画	第1回 系統別・治療手技（マニュアルセラピー）総論 第2回 基礎となる解剖・生理・運動学の概要 第3回 対象となる機能障害に対する一般的な評価とその意義 第4回 神経筋骨格系障害の病態生理学的治癒過程 第5回 クリニカルリーズニング 第6回 リスク管理（イエローフラッグとレッドフラッグ） 小テスト 第7回 関節モビライゼーション理論 第8回 関節モビライゼーション演習（脊柱） 第9回 関節モビライゼーション演習（四肢） 第10回 軟部組織モビライゼーション理論 第11回 軟部組織モビライゼーション演習 第12回 神経系モビライゼーション理論 第13回 神経系モビライゼーション演習 第14回 その他の治療手技紹介① 第15回 その他の治療手技紹介②				
履修上の注意	実技練習を繰り返し行うこと				
成績評価	小テスト(20%)、実技試験(40%)、定期試験(40%)で評価する				
テキスト	参考図書、その他				
運動療法Ⅰ 第2版 監修 千住秀明 編集 河元岩男 溝田勝彦 出版社：神陵文庫			授業中必要に応じてその都度紹介する		

講義名	日常生活活動学										
講師名	山下裕（実務経験者）										
学年	2	年	学期	後	期	時間	30	時間	必修	1 単位	
講義目標	日常生活活動、疾患、症状と日常生活活動の基礎知識について理解し、標準化されたADL検査を実施できること、ICFの概念に基づき日常生活障害に影響する様々な要因を理解し解決策を説明できるようになることである。ADLの標準化された評価法である Functional Independence Measure（FIM）、Barthel Index（BI）などの習得と臨床の評価に必要なADLの観察方法、基本的能力や環境との関連性を考慮した介助・指導方法を学ぶ。										
授業計画	第1回 ADLの概要（定義などの基礎知識） 第2回 IADLとQOLの概要（定義などの基礎知識） 第3回 活動の理解（活動と生活問題） 第4回 障害の理解（生活問題とICIDH、ICF） 第5回 ADLの評価1（理学療法における考え方） 第6回 ADLの評価2（FIMなど各種評価法） 第7回 ADLの評価3（BIなど各種評価法） 第8回 ADL訓練の考え方 第9回 動作観察の基礎知識 第10回 起居動作 第11回 移乗 第12回 移乗、更衣動作 第13回 車いすの理解と杖の処方 第14回 車いすの駆動介助 第15回 まとめ										小テスト
履修上の注意	生活場面で行われる動作について学ぶ。 予習・復習を欠かさず行い講義に臨むようにする。 また、講義中に指名し発表を促すこともあるが、積極的に講義に参加すること。										
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する										
テキスト	シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト改訂第3版 南江堂					参考図書、その他 新版 日常生活活動(ADL)-評価と実際- 医歯薬出版株式会社 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 医学書院					

講義名	日常生活活動学実習										
講師名	石橋誠隆（実務経験者）										
学年	3	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	理学療法の臨床における代表疾患において、動作の模倣を通じ障害の特徴を説明する。さらに、補助誘導方法の教示により、疾患別運動療法実践の糸口をつかむ。車いす、杖などの福祉用具その他自助具につき、疾患に適応した使用方法および指導方法を説明する。										
授業計画	第1回 脳血管障害の特徴とICFの理解、ADL訓練の基本 第2回 脳血管障害患者のベッド上動作 第3回 脳血管障害患者の車いす移乗・操作 第4回 脳血管障害患者の更衣動作、トイレ動作、入浴動作、整容動作 第5回 脳血管障害患者の歩行、応用歩行と歩行補助具 第6回 脳血管障害患者の起き上がり(レポート課題) 第7回 脊髄損傷患者の起居動作 小テスト 第8回 脊髄損傷患者の車椅子移乗・操作 第9回 脊髄損傷患者の立位・歩行 第10回 パーキンソン病患者のADL 第11回 リウマチ患者のADL 第12回 股関節・膝関節疾患患者のADL 第13回 慢性腰痛症患者のADL 第14回 運動失調患者のADL 第15回 まとめ										
履修上の注意	生活場面で行われる動作について学ぶ。 予習・復習を欠かさず行い講義に臨むようにする。 また、講義中に指名し発表を促すこともあるが、積極的に講義に参加すること。										
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する										
テキスト	シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト改訂第3版 南江堂					参考図書、その他 日常生活活動の分析-身体運動学的アプローチ 医歯薬出版株式会社 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 医学書院					

講義名	生活環境学実習										
講師名	石橋誠隆（実務経験者）										
学年	3	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	医療機関退院後もリハビリテーションが必要な対象者への支援は、医学的側面だけではなく、「生活者」の視点に立った個別のアプローチが必要である。理学療法士の役割をより深く学ぶため、QOLの向上を目指した「オーダーメイド」プランの作成や住宅改修・環境面に対するアプローチについての知識を習得する。										
授業計画	第1回　オリエンテーション、地域理学療法について（概略の解説） 第2回　生活リズムの重要性和QOL向上の支援 第3回　生活環境での課題を抽出する①（屋内環境） 第4回　生活環境での課題を抽出する②（屋外環境） 第5回　生活環境改善・住宅改修の検討①（バリアフリー化について） 第6回　生活環境改善・住宅改修の検討②（計画のポイントについて） 第7回　生活環境改善・住宅改修の検討③（屋外など） 第8回　生活環境改善・住宅改修の検討④（玄関など） 第9回　生活環境改善・住宅改修の検討⑤（廊下など） 第10回　生活環境改善・住宅改修の検討⑥（居室など） 第11回　生活環境改善・住宅改修の検討⑦（トイレなど） 第12回　生活環境改善・住宅改修の検討⑧（浴室など） 第13回　公共施設の改修検討①（駅） 第14回　公共施設の改修検討②（道路） 第15回　公共施設の改修検討③（図書館）										
履修上の注意	公共施設など学外に出向き、情報収集を行う。普段、何気なく使用している場面にどのような問題があり、理学療法士の視点からどのように改修すべきかを考える。 広い視野を持って課題に取り組むこと。										
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する										
テキスト	シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 南江堂										
参考図書、その他	現場から学ぶ自立支援のための住宅改修 医学書院　建築知識 なんかなくても住宅改修を成功させる本 三輪書店 住宅改修アセスメントのすべて 三和書籍										
標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学 医学書院											

講義名	障害者スポーツ演習					
講師名	森本信三（実務経験者）					
学年	3	年	学期	前期	時間	30 時間 選択 1 単位
講義目標	障害者スポーツについて、実技演習を交えて学ぶ。障がい者スポーツの意義と理念を理解し、身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解を深めるとともに、日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について学ぶ。また、障害に応じたスポーツの工夫や、障害者スポーツ指導者について理解する。初めてスポーツを行う方に対して、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける。					
授業計画	第1回 コース・オリエンテーション 障害者スポーツの意義と理念 第2回 障害者の理解、障害者とスポーツの効果について学ぶ。 第3回 障害者福祉と法律について学ぶ。 第4回 障害者のスポーツの現状と課題について学ぶ。 第5回 障害者のスポーツ指導者の育成について学ぶ。 第6回 障害の理解とスポーツの実際（身体障害など）① 第7回 障害の理解とスポーツの実際（知的障害など）② 第8回 障害の理解とスポーツの実際（精神障害など）③ 第9回 障害の理解とスポーツの実際（視覚障害など）④ 第10回 安全管理とボランティアについて学ぶ。 第11回 障害者のスポーツ指導者の育成について学ぶ。 第12回 障害者スポーツに関する教育・研究機関、学会、団体等 第13回 障害者のスポーツ指導上の留意点 第14回 パラリンピック競技について学ぶ。 第15回 競技種目別や地域レベル障害者スポーツについて学ぶ。					
履修上の注意						
成績評価	受講態度（20％）レポート課題(100％)で判断する					
テキスト	参考図書．その他					
	配布資料を中心に授業を行う。			授業中、適宜紹介する、		

講義名	応用物理療法学演習									
講師名	福井直樹（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	疼痛・遅発性筋痛・褥瘡・痙攣抑制・脳血管障害患者の可塑性の促進やパーキンソン病の前傾姿勢、脳血管障害の半側空間失認に対する電気刺激法などの最新の物理療法について理論背景から学び、臨床実践ができるよう実技を行う。									
授業計画	第1回	デルマトームおよびスクレロームを背景にした疼痛抑制電気刺激法の理論								
	第2回	デルマトームおよびスクレロームを背景にした疼痛抑制電気刺激法の実践								
	第3回	広汎性侵害抑制を用いた疼痛抑制電気刺激法の理論								
	第4回	広汎性侵害抑制を用いた疼痛抑制電気刺激法の実践								
	第5回	遅発性筋痛に対する微弱電流電気刺激法の理論								
	第6回	遅発性筋痛に対する微弱電流電気刺激法の実践								
	第7回	褥瘡に対する微弱電流電気刺激法の理論								
	第8回	褥瘡に対する微弱電流電気刺激法の実践								
	第9回	痙攣抑制を目的とした神経筋電気刺激法の理論								
	第10回	痙攣抑制を目的とした神経筋電気刺激法の実践								
	第11回	末梢神経電気刺激による運動学習効果の増強理論								
	第12回	末梢神経電気刺激による運動学習効果増強の実践								
	第13回	パーキンソン病や半側空間失認に対する前庭神経電気刺激法の理論								
	第14回	パーキンソン病や半側空間失認に対する前庭神経電気刺激法の実践								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	専門的な講義になるので、基礎知識を自己学習で補うこと。 実習ができる服装で参加すること。									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する 課題：実践時にデータ提出									
テキスト	参考図書、その他 エビデンスから身につける物理療法 羊土社 庄本康治／編 EBM物理療法原著第4版 医歯薬出版株式会社 Michelle H.Cameron 原著／渡部一郎 訳									

講義名	高次脳機能障害の治療法									
講師名	湯川喜裕（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	授業目標は、作業療法士・理学療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害のスクリーニング検査や理学療法中の注意事項やアプローチ方法などを講義やグループワークで学ぶことである。特に高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができるようにする。									
授業計画	第1回	オリエンテーション・高次脳機能障害の概要								
	第2回	認知機能検査の実際と解釈								
	第3回	注意機能の評価の実際と解釈・注意障害における理学療法中の注意事項								
	第4回	注意障害の特徴と評価、リハビリテーション								
	第5回	半側空間無視の評価の解釈・半側空間無視における理学療法中の注意事項								
	第6回	半側空間無視の特徴と評価、リハビリテーション								
	第7回	記憶の評価の解釈、記憶障害における理学療法中の注意事項								
	第8回	記憶障害の特徴と評価、リハビリテーション								
	第9回	失語の評価の実際、失語症の評価の解釈・失行症における理学療法中の注意事項								
	第10回	失語の特徴と評価、リハビリテーション								
	第11回	行為の評価の実際、行為の評価の解釈・失行症における理学療法中の注意事項								
	第12回	失行の特徴と評価、リハビリテーション								
	第13回	その他の評価の実際と解釈								
	第14回	前頭葉障害の特徴と評価、リハビリテーション								
	第15回	遂行機能障害の特徴と評価、リハビリテーション								
履修上の注意	毎回の授業の復習をすること。遅刻・欠席はしないように。									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他 高次脳機能障害学マエストロシリーズ （1）基礎知識のエッセンス 医歯薬出版 高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版									

講義名	認知症の理解とその支援									
講師名	岡橋さやか（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	授業目標は、認知症の疫学やその分類、症状と、認知症の人を取り巻く社会背景を理解することにより、認知症の人のその人らしさを尊重した専門職としての支援方法を考える力と態度を養うことである。									
授業計画	第1回 認知症とは 第2回 認知症の疫学と各国の政策 第3回 認知症の病態と症状 第4回 主な原因疾患の症状と経過 第5回 認知症の治療 第6回 パーソン・センタード・ケア 第7回 認知症をもつ人への評価 ① 第8回 認知症をもつ人への評価 ② 第9回 心身機能への支援 ① 第10回 心身機能への支援 ② 第11回 作業を用いた支援 ① 第12回 作業を用いた支援 ② 第13回 IADL・ADLへの支援 第14回 物的・社会的環境への支援 第15回 回想法、リアリティ・オリエンテーション、その他の支援方法									
履修上の注意	予習・復習を行い、授業に積極的・能動的に参加すること。 グループディスカッションを多く取り入れるので、学びを深めること。									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	資料配付する。									
	参考図書、その他 宮口英樹・監修 小川真寛、他・編集認知症をもつ人への作業療法アプローチ ―視点・プロセス・理論― メジカルビュー社 トム・キットリット&キャスリーン・ノレティン著 認知症の介護のために知っておきたい大切なこと パーソンセンタードケア入門 高橋誠一監訳 寺田真理子訳 筒井書房									

講義名	レクリエーション活動演習									
講師名	山田大豪（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	授業目標は、レクリエーションの対象・効果を理解し、病状の軽減や活動量の増加を目指す内容、すなわちリハビリテーションに通じるように用いる技術を体得することである。レクリエーションの種類、内容の紹介から始まり、対象者に応じて実施できるよう演習する。									
授業計画	第1回 レクリエーションの基本理念 第2回 治療的レクリエーションの技法 第3回 種目別レクリエーション活動（1） 講義：遊戯・ゲーム 第4回 種目別レクリエーション活動（2） 演習：遊戯・ゲーム 第5回 種目別レクリエーション活動（3） 講義：スポーツ・音楽・工芸・社交的活動など 第6回 種目別レクリエーション活動（4） 演習：スポーツ・音楽・工芸・社交的活動など 第7回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（1） 講義：脳卒中・筋ジストロフィー・ALS・PD・脊損など 第8回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（2） 演習：脳卒中・筋ジストロフィー・ALS・PD・脊損など 第9回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（3） 講義：外傷性脳損傷・リウマチ・心疾患・統合失調症など 第10回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（4） 演習：外傷性脳損傷・リウマチ・心疾患・統合失調症など 第11回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（5） 講義：知的障害・自閉症・認知症・視覚障害など 第12回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（6） 講義：知的障害・自閉症・認知症・視覚障害など 第13回 施設別にみた治療的レクリエーション活動（1） 保健センター・病院など 第14回 施設別にみた治療的レクリエーション活動（2） 介護保険施設・サービスなど 第15回 施設別にみた治療的レクリエーション活動（3） 障害児（者）施設など									
履修上の注意	予習・復習を行い、授業に積極的・能動的に参加する。 グループでの発表や演習もあるので、意見交換をしっかりと行い学びを深めること。									
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する									
テキスト	参考図書. その他 中村春基・他 レクリエーション【改訂第2版】社会参加を促す治療的レクリエーション									

講義名	地域理学療法Ⅰ										
講師名	鍵井一浩（実務経験者）										
学年	2	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	地域で生活している高齢者・障害者・障害児の生活自立支援に向けて、地域リハビリテーションの意義や社会資源・他職種連携・関係各所の連携等を中心に学習する。また障害予防や介護予防、介護制度の利用や福祉用具の算定についても幅広く学ぶ。										
授業計画	第1回 地域リハビリテーションの概念 第2回 制度と関連法規（介護保険等） 第3回 地域における社会資源①（フォーマル） 第4回 地域における社会資源②（インフォーマル） 第5回 他職種との協働 第6回 地域での連携（関連機関） 第7回 要介護認定とケアマネジメント 第8回 介護予防と障害予防 第9回 健康状態の評価とリスク管理 第10回 健康増進 第11回 特定疾患の評価と介入方法 第12回 在宅医療にかかる知識 （摂食嚥下・胃瘻・IVH・人工呼吸器・褥瘡） 第13回 住環境評価と住環境整備（住宅改修） 第14回 福祉用具 （歩行補助具・車いす・移乗機器・日常生活用具・環境制御装置） 第15回 まとめ										
履修上の注意	今後、理学療法でも拡大が予測される分野です。 予習・復習を欠かさず行い講義に臨むようにする。 また、講義中に指名をすることもあります。積極的に講義に参加する。										
成績評価	受講態度(20%)，定期試験(80%)で判断する										
テキスト	参考図書、その他 ビジュアルレクチャー地域理学療法 医歯薬出版株式会社 福祉住環境コーディネーター2級検定試験公式テキスト 東京商工会議所 標準理学療法 地域理学療法 医学書院										

講義名	地域理学療法学Ⅱ										
講師名	鍵井一浩（実務経験者）										
学年	3	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	本講義では地域で生活している高齢者・障害者・障害児の生活自立支援に向けて、訪問理学療法・通所理学療法の実際を写真や動画で学習し、地域における理学療法のあり方を社会資源、介護老人保健施設、認知症高齢者等のキーワードに基づいて事例検討を行う。										
授業計画	第1回 施設における理学療法（入院・入所） 第2回 訪問理学療法 第3回 通所理学療法 第4回 ポジショニングとシーティング 第5回 動作指導と介助方法の指導 第6回 地域における理学療法 課題発表1 【社会資源とは、近隣市における社会資源】 第7回 地域における理学療法 課題発表1 【社会資源とは、近隣町村における社会資源】 第8回 地域における理学療法 課題発表2 【介護老人保健施設の役割・機能、事例Aを通して】 第9回 地域における理学療法 課題発表2 【介護老人保健施設の役割・機能、事例Bを通して】 第10回 地域における理学療法 課題発表2 【介護老人保健施設の役割・機能、事例Cを通して】 第11回 地域における理学療法 課題発表3 【認知症高齢者への集団理学療法・リハビリテーション】 第12回 地域における理学療法 課題発表3 【認知症高齢者への個別理学療法・リハビリテーション】 第13回 地域における理学療法 課題発表4 【認知症を有する高齢者の事例D】 第14回 地域における理学療法 課題発表4 【認知症を有する高齢者の事例E】 第15回 地域における理学療法 課題発表4 【認知症を有する高齢者の事例F】										
履修上の注意	今後、理学療法でも拡大が予測される分野です。 予習・復習を欠かさず行い講義に臨むようにする。 また、講義中に指名をすることもあります。積極的に講義に参加する。										
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する										
テキスト	参考図書、その他 PT・OTビジュアルテキスト地域理学療法学 羊土社 ビジュアルレクチャー地域理学療法学 医歯薬出版株式会社 標準理学療法学 地域理学療法学 医学書院										

講義名	地域理学療法学実習									
講師名	鍵井一浩（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	本講義では、地域理学療法で学習した内容をふまえ、施設や地域活動の現場見学等を通して地域で生活を送る障害者の現状を知ることを目的とする。 主に福祉用具展示施設の見学実習や地域で活動する理学療法士に帯同し、介護保険サービスのあり方や各種福祉用具の用途、環境整備の提供方法を理解する。									
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 オリエンテーション 実習の個人目標立案 第3回 施設見学実習1（挨拶） 第4回 施設見学実習2（施設の役割などを知る） 第5回 施設見学実習3（対象者を知る） 第6回 施設見学実習4（障害を知る） 第7回 施設見学実習5（施設理学療法士の行動を学ぶ） 第8回 施設見学実習6（まとめ） 第9回 地域活動現場見学実習1（地域の実情を知る） 第10回 地域活動現場見学実習2（現場の理学療法士の考えを知る） 第11回 地域活動現場見学実習3（現場の理学療法士の行動を学ぶ） 第12回 地域活動現場見学実習4（他職種との連携を学ぶ） 第13回 地域活動現場見学実習5（対象者のニーズを知る） 第14回 地域活動現場見学実習6（まとめ） 第15回 まとめ									
履修上の注意	施設や地域活動の現場に出向いて見学実習を行う。 利用者や対象者とのかわりに気を付けながら、理学療法士が現場でどのように考え行動しているかを学ぶこと。									
成績評価	受講態度(20%)，レポート課題(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他 リハビリ部門管理者のための実践テキスト ログイ書房高齢者施設の介護人材育成テキスト 中央法規 介護支援支援専門員実践テキスト 中央法規 実例でわかる介護老人保健施設 法研									

講義名	理学療法見学実習									
講師名	松永秀俊、吉崎邦夫、鍵井一浩、山下裕、松井有史、福井直樹、禹炫在 （全員実務経験者）									
学年	1	年	学期	前期	時間	45	時間	必修	1	単位
講義目標	医療人としての接遇・態度を身につけること、そして理学療法の対象となる人や疾患像を明確にすること、理学療法における施設特性を理解することである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で、理学療法過程と対象者の関わり方を見学する。また、その施設の関連職種の業務や患者・利用者への関わり方の違いやチームアプローチについて理解する。その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。									
授業計画	1日目　オリエンテーション（実習目的と実習内容） 2日目　実習病院及び理学療法場面を見学し、指導者より理学療法士の役割について説明を受ける 3日目　理学療法場面を見学し、指導者より理学療法士の専門性について説明を受ける 4日目　理学療法場面を見学し、指導者より代表的な対象疾患及び障害像について説明を受ける 5日目　実習まとめ									
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験する。									
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。実習指導者による本学規定の臨床実習報告書、実習中レポート、終了後まとめレポート及び発表会にて行う。									
テキスト	参考図書、その他 リハビリテーションリスク管理販売費度ブック MEDICAL VIEW 理学療法士の一日 保育社									

講義名	理学療法体験実習										
講師名	松永秀俊、吉崎邦夫、鍵井一浩、山下裕、松井有史、福井直樹、禹炫在 (全員実務経験者)										
学年	2	年	学期	後	期	時間	90	時間	必修	2	単位
講義目標	学内外で学んだ内容を活かし、臨床実習指導者の指導の下で、見学と対象者との会話等においての体験を行う。また、チームの一員として問診、授業で履修している理学療法評価を共同参加により理学療法過程を体験する。その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。その内の1週間は、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションにおいて行う。										
授業計画	1 週目 オリエンテーションや見学を通して理学療法士像の一部を把握できる。 2 週目 臨床実習指導者のもと理学療法士像を把握できる。										
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を体験する。										
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。実習指導者による本学規定の臨床実習報告書，実習中レポート、終了後まとめレポート及び発表会にて行う。										
テキスト	参考図書．その他 リハビリテーション評価データブック 医学書院 理学療法評価学 文光堂 理学療法臨床評価プランニング 南江堂										

講義名	理学療法評価実習				
講師名	松永秀俊、吉崎邦夫、鍵井一浩、山下裕、松井有史、福井直樹、禹炫在 (全員実務経験者)				
学年	3	年	学期	前期	時間 180 時間 必修 4 単位
講義目標	学内で学んだ理学療法評価とその考え方をベースにし、理学療法における臨床思考過程を学ぶ。特に、理学療法評価における目標設定や治療プログラムの立案にあたっては、臨床実習指導者の思考過程を具体的に提示してもらい理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。				
授業計画	1 週目 オリエンテーションや見学を通して一部の疾患・障害像を把握できる。 2 週目 臨床実習指導者のもと一部の疾患・障害像を把握できる。 3 週目 臨床実習指導者のもと患者に適した理学療法評価を抽出できる。 4 週目 臨床実習指導者のもと理学療法評価の一部を実施する。 5 週目 臨床実習指導者のもと理学療法評価の一部を実施する。				
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験する。				
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学の評価表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。				
テキスト	参考図書、その他 リハビリテーション評価ポケットマニュアル 医歯薬出版株式会社 理学療法評価学 文光堂 理学療法臨床評価プランニング 南江堂				

講義名	理学療法総合臨床実習				
講師名	松永秀俊、吉崎邦夫、鍵井一浩、山下裕、松井有史、福井直樹、禹炫在 (全員実務経験者)				
学年	4	年	学期	前期	時間 720 時間 必修 16 単位
講義目標	8週間2カ所の臨床実習施設において総合臨床実習を行う。これまでの実習を踏まえた理学療法の臨床思考過程と実践方法を診療チームの一員として学ぶ。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として一部理学療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。				
授業計画	実習前 OSCEから理学療法療法の評価技能及び理学療法治療過程の検討状況を確認する 1 週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。 2 週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。 3 週目 臨床実習指導者と一緒に理学療法評価を実施できる 4 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法の立案を一部実施できる 5 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法を実施できる 6 週目 臨床実習指導者のもと基本的理学療法の立案を実施できる 7 週目 臨床実習指導者のもと基本的理学療法の一部を実施できる 8 週目 臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的理学療法が実施できる。 9 週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。 10 週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。 11 週目 臨床実習指導者と一緒に理学療法評価を実施できる 12 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法の立案を一部実施できる 13 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的理学療法を実施できる 14 週目 臨床実習指導者のもと基本的理学療法の立案を実施できる 15 週目 臨床実習指導者のもと基本的理学療法の一部を実施できる 16 週目 臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的理学療法が実施できる。 実習後 OSCEから理学療法療法の評価技能及び理学療法治療過程の検討状況を確認する				
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な理学療法過程を経験する。				
成績評価	実習前後に客観的臨床能力試験(OSCE)を行う。臨床実習終了時、総合評価における成績判定(S,A,B,C,D)は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学指定の評定表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習前後のOSCEの結果、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。				
テキスト	参考図書、その他 リハカルテ活用ハンドブック MEDICAL VIEW 理学療法・作業療法のSOAPノートマニュアル 協同医書出版 PT卒後ハンドブック 三輪書店				

講義名	作業療法概論				
講師名	長辻永喜（実務経験者）				
学年	1	年	学期	前期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	作業療法の歴史とパラダイムの変遷について理解を深め、作業療法の目的を正しく理解する。また、それらを踏まえた上で、人の健康の捉え方、作業についての知識の基礎と作業療法の理論を学ぶ。授業内容として、作業療法の定義や理論、作業の意味や作業を通じた人の捉え方、社会状況や法・制度、他職種連携、作業療法の過程と身体障害、精神障害、老年期、発達障害の各領域の対象者と、急性期から生活期までの実際等を学習する。				
授業計画	第1回 作業療法とは何か 第2回 作業療法の歴史とパラダイムの変遷 第3回 作業療法の対象と活動分野・領域作業 第4回 人の健康の捉え方（ICF） 第5回 作業療法の実践過程 第6回 チームアプローチ 第7回 作業療法の意味 第8回 作業的存在 第9回 作業療法の理論 ① 第10回 作業療法の理論 ② 第11回 作業療法の対象と活動領域 第12回 急性期における作業療法の役割・機能 第13回 回復期における作業療法の役割・機能 第14回 生活期における作業療法の役割・機能 第15回 倫理、管理運営				
履修上の注意	予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにする。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めてください。				
成績評価	小テスト(20%)，定期試験(80%)で判断する				
テキスト	参考図書、その他				
矢谷令子著「標準作業療法学 作業療法学概論」 医学書院			ギャーリー・キールホフナー・著、山田 孝・監訳 「作業療法 実践の理論 原著第4版」 医学書院 吉川ひろみ・著「『作業』って何だろう 第2版 作業科学入門」 医歯薬出版株式会社		

講義名	基礎作業学									
講師名	岡橋さやか（実務経験者）									
学年	1	年	学期	後 期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、作業活動における基礎的な構成要素を理解できることとする。授業内容は、人が作業を行うことによる、環境からの影響、身体機能や精神機能からの影響や関係性について理解を深めていくことである。									
授業計画	第1回	オリエンテーション／作業とは								
	第2回	作業活動とライフサイクル								
	第3回	作業遂行の構成要素								
	第4回	作業遂行に関する理論①身体機能的理解								
	第5回	作業遂行に関する理論②精神機能的理解								
	第6回	作業遂行に関する理論③発達学的理解								
	第7回	作業遂行の包括的理解								小テスト
	第8回	作業の治療的応用のための基本理論①学習理論								
	第9回	作業の治療的応用のための基本理論②行動理論								
	第10回	作業の治療的応用のための基本理論③ICF								
	第11回	作業分析とは								
	第12回	一般的作業分析								
	第13回	限定的作業分析								
	第14回	作業・作業活動の治療的使用								
	第15回	作業療法と作業活動（病院で働く作業療法士からの講義）								
履修上の注意	予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにすること。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。									
成績評価	小テスト(20%)、定期試験(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
矢谷令子監修「標準作業療法学 基礎作業学」医学書院										

講義名	作業療法研究論										
講師名	吉田一平（実務経験者）										
学年	2	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、臨床家となってから作業療法研究ができるための研究手法（質的、量的研究）の基本的な手続きを学ぶことである。特に臨床研究で必ず取り組む事例報告書の手続きを学び、実際に臨床実習で経験した事例についてまとめる演習を行なう。形式は、日本作業療法士協会の事例登録制度のフォームを用いる。最終的に事例発表会を行う										
授業計画	第1回	作業療法研究法の概論									
	第2回	研究とは何をするのか									
	第3回	研究の種類と論文構成									
	第4回	研究に関わる基礎知識									
	第5回	研究論文の発表と手続き									
	第6回	実際の作業療法研究事例について									
	第7回	研究疑問の立て方と解決法									
	第8回	文献検索（演習） 書籍から									小テスト
	第9回	文献検索（演習） インターネットから									
	第10回	研究計画の立案									
	第11回	研究計画の報告									
	第12回	研究計画書の作成（演習）①研究デザイン・目的									
	第13回	研究計画書の作成（演習）②仮説・方法									
	第14回	研究計画書の作成（演習）③スケジュール									
	第15回	まとめ									
履修上の注意	講義の際、前回の内容に関しての小テストを実施したり、レポートを提出する。また、講義前に予習として教科書を読んでくること。小テストやレポートの内容および予習範囲は講義の最後にアナウンスする										
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する										
テキスト	参考図書、その他 作業で創るエビデンス 作業療法士のための研究法の学びかた 医学書院										

講義名	基礎作業学実習Ⅰ				
講師名	吉田一平（実務経験者）				
学年	2	年	学期	後 期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	授業目標は、手工芸を中心とした作業を行うことで、生活の中での作業の持つ意味を理解し、様々な作業活動の行程、特徴、工夫点など作業療法の視点で作業活動を知ることができるようになること、様々な作業活動を通して、作業活動の分析の基礎を身につけ、作業活動の活用の視点を知ること为目标とする。授業内容は、作業活動のうち革細工、マクラメなどの作業活動を用いて作業遂行要素に関する作業分析を行ない、レポートにて考察することで理解を含めていく。				
授業計画	第1回	作業療法における基本理論,作業分析方法の概略			
	第2回	作業的存在の分析について			
	第3回	作業的存在の分析の実際			
	第4回	革細工の実際			
	第5回	革細工の分析			
	第6回	革細工の臨床的応用について			
	第7回	限定的作業分析の実際とフィードバック			
	第8回	木工芸の実際			
	第9回	木工芸の分析			
	第10回	木工芸の臨床的応用について			
	第11回	籐細工の実際と分析			
	第12回	籐細工の臨床的応用について			
	第13回	陶芸の実際			
	第14回	陶芸の分析			
	第15回	陶芸の臨床的応用について			
履修上の注意	予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにする。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。				
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する				
テキスト	参考図書、その他				
小林夏子他「標準作業療法学 基礎作業学」 医学書院					

講義名	基礎作業学実習Ⅱ									
講師名	西尾恵（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	作業療法の治療として多く用いられる作業活動種目について、治療的視点を持ちながら、対象者が手順や方法を理解し遂行できるような指導ができるようになることである。 授業方法は、木工、モザイクなどの作業種目を提示し、グループにて作品を完成させる中で行程分析を行い作業種目の治療的視点、他者に指導できる教授方法を検討し、レポートにまとめていき、実際に他者に教授するまでをおこなう。									
授業計画	第1回 包括的作業分析 第2回 作業を学習するための理論 第3回 行動学習を利用した支援 第4回 行動学習の方法 第5回 作業の選定および作業分析 第6回 作業支援の実践とフィードバック（木工） 第7回 作業支援の実践とフィードバック（革細工） 第8回 作業支援の実践とフィードバック（陶工） 第9回 作業支援の実践とフィードバック（モザイク） 第10回 興味・関心チェックシート演習 第11回 作業遂行とクライアント中心の実践・COPM演習 第12回 トップダウン評価・AMPS運動技能 第13回 トップダウン評価・AMPSプロセス技能 第14回 課題演習1・作業遂行での課題を検討する 第15回 課題演習2・作業遂行を可能にする支援計画検討									
履修上の注意	前半は作業支援について行う。実施する作業に関して、事前に行う等して、作業支援の準備を十分に行っておくこと。 後半は作業の実施・遂行に関する表を中心に行う。講義までに実施する検査査・評価内容および方法に関して確認しておくこと。									
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する									
テキスト	標準作業療法学 基礎作業学 第3版 医学書院									
	作業療法学 ゴールドマスターテキスト 作業学 メディカルビュー社									
	COPM・AMPSスターティングガイド 医学書院					作業活動実習マニュアル 医歯薬出版株式会社				

講義名	作業療法評価学総論Ⅰ									
講師名	長辻永喜（実務経験者）									
学年	1	年	学期	後 期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、分野を超え、作業療法における評価の流れや評価の重要性について理解を深めることである。 授業内容は、作業療法評価の目的と意義、評価の過程、各分野で必要な作業療法評価の基本的な知識を深める。									
授業計画	第1回 オリエンテーション 作業療法過程の復習 第2回 作業療法評価の概論 第3回 生理機能の評価（バイタルサイン等） 第4回 身体障害作業療法評価の特徴と評価の流れ 第5回 身体障害の評価（整形疾患、骨折等） 第6回 身体障害の評価（整形疾患、末梢神経障害等） 第7回 身体障害の評価（中枢神経系疾患等） 第8回 身体障害の評価（認知機能関連疾患等） 第9回 身体障害の評価（その他疾患） 第10回 精神障害作業療法評価の特徴と評価の流れ 第11回 精神障害の評価（統合失調症等） 第12回 精神障害の評価（神経症性疾患等） 第13回 精神障害の評価（気分障害関連疾患等） 第14回 精神障害の評価（心神喪失関連等） 第15回 精神障害の評価（その他の疾患）									
履修上の注意	基礎医学の学習内容を事前に確認しておくこと。 各領域の作業療法について予習を行っておくこと（指定教科書、その他、授業に関する他の参考書等を読み込んでおくこと）。 次回の授業につながる内容に関しては、その日習った内容について復習しておくこと。									
成績評価	講義中課題(40%)、定期試験(60%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学 岩崎テル子 他（編集）医学書院										

講義名	作業療法評価学総論Ⅱ				
講師名	山田大豪（実務経験者）、岡橋さやか（実務経験者）				
学年	2	年	学期	前期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	授業目標は、分野を超え、作業療法における評価の流れや評価の重要性について理解を深めることである。 授業内容は、作業療法評価の目的と意義、評価の過程、各分野で必要な作業療法評価の基本的な知識を深める。作業療法評価の分析解釈方法を病気別に理解する。				
授業計画	第1回 発達障害作業療法評価の特徴と評価の流れ 第2回 発達障害の評価（運動機能障害等） 第3回 発達障害の評価（神経障害・進行性障害等） 第4回 発達障害の評価（自閉症性障害等） 第5回 発達障害の評価（発達障害等） 第6回 発達障害の評価（その他障害） 第7回 高齢期障害作業療法評価の特徴と評価の流れ 第8回 高齢期障害の評価（整形疾患、骨折等） 第9回 高齢期障害の評価（中枢神経等） 第10回 高齢期障害の評価（認知機能障害等） 第11回 高齢期障害の評価（廃用性症候群等） 第12回 高齢期障害の評価（その他疾患） 第13回 作業療法評価の分析・統合と解釈（急性期および回復期） 第14回 作業療法評価の分析・統合と解釈（生活期） 第15回 作業療法評価の分析・統合と解釈（維持期）				
履修上の注意	各領域の作業療法について予習を行っておくこと（指定教科書、その他、授業に関する他の参考書等を読み込んでおくこと）。次回の授業につながる内容に関しては、その日習った内容について復習しておくこと。				
成績評価	講義中課題(40%)、定期試験(60%)で判断する				
テキスト	参考図書、その他 標準作業療法学（専門分野）作業療法評価学 岩崎テル子 他（編集）医学書院				

講義名	作業療法評価学実習					
講師名	湯川喜裕（実務経験者）、西尾恵（実務経験者）					
学年	2	年	学期	前期	時間	60 時間 必修 2 単位
講義目標	作業療法で用いられる基本的な技術が修得できることとする。内容として、作業療法場面における面接や観察、オリエンテーションを含めた各検査測定の方法について教員の実演を通してモデル提示を行なう。一定時間の実技練習と指導を重ね、臨床実習に向けてスキルを確認し、加えて自ら学ぶ姿勢も身につけていく。臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）についての説明を行なう。					
授業計画	第1回 コースオリエンテーション、評価実技の概要説明 （1回2時間、1～15回迄同様） 第2回 車椅子の駆動介助（デモンストレーション・実技練習） 第3回 車椅子の駆動介助 実技確認①（基本的な車椅子の操作と心構え） 第4回 車椅子の駆動介助 実技確認②（対象者の姿勢への配慮など） 第5回 血圧と脈拍の測定（デモンストレーション・実技練習） 第6回 血圧と脈拍の測定 実技確認①（患者への説明などの対応） 第7回 血圧と脈拍の測定 実技確認②（正確な血圧計の使い方） 第8回 関節可動域測定（デモンストレーション・実技練習） 第9回 関節可動域測定 実技確認①（患者への説明などの対応） 第10回 関節可動域測定 実技確認②（角度計の使い方、基本軸・移動軸など） 第11回 腱反射・病的反射（デモンストレーション・実技練習） 第12回 腱反射・病的反射 実技確認①（患者への説明などの対応） 第13回 腱反射・病的反射 実技確認②（打腱器の使い方、検査方法の正確性） 第14回 客観的臨床能力試験（OSCE:Objective Structured Clinical Examination）の解説 第15回 客観的臨床能力試験（OSCE:Objective Structured Clinical Examination）のデモンストレーション					
履修上の注意	学生同士での実技練習を積極的に実施すること。実技および実技確認においては、実習を想定した服装を着用して行なう。					
成績評価	実技4項目について、各項目20点で採点を行なう。					
テキスト	参考図書、その他 才藤栄一「臨床技能とOSCE」金原出版					

講義名	作業療法評価学Ⅰ				
講師名	湯川喜裕（実務経験者）、西尾恵（実務経験者）				
学年	2	年	学期	前期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	講義の目標は、作業療法における検査測定の基本知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明でき、検査測定を実施できることである。評価学Ⅰでは身体構造に関連する検査を中心について学ぶ。 授業内容は、作業療法の評価における各検査を体験を通して理解を深めていく。実技を通して基本的な技法を学んだ内容を小テストや実技テストを通して確実に知識・技術が身に付いていることを確認しながら進めていく。				
授業計画	第1回 オリエンテーション、評価プロセス及び目的 第2回 形態計測（概要） 第3回 形態計測（実技） 第4回 関節可動域検査①（肩関節） 第5回 関節可動域検査②（肘関節、手関節） 第6回 関節可動域検査③（手指、股関節） 第7回 関節可動域検査④（膝関節、足関節） 第8回 関節可動域検査実技試験 第9回 反射検査の意義と目的 第10回 反射検査（腱反射、病的反射） 第11回 姿勢反射検査の意義と目的 第12回 姿勢反射検査（原始反射、姿勢反射） 第13回 感覚検査の意義と目的 第14回 感覚検査（表在感覚） 第15回 感覚検査（深部感覚）				
履修上の注意	実技を中心に行なう。検査技術を獲得するためには授業時間が医学集として学生同士の実技練習が必須となる。				
成績評価	小テスト20%、実技テスト30%、定期試験50%				
テキスト	参考図書、その他 佐竹勝『作業療法評価学（作業療法学 ゴールド・マ スター・テキスト）』メディカルビュー社				

講義名	作業療法評価学Ⅱ				
講師名	山田大豪（実務経験者）				
学年	2	年	学期	後 期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	講義の目標は、作業療法における検査測定の基本知識と方法の理解、各検査測定の目的や意義を説明でき、検査測定を実施できることである評価学Ⅱでは身体機能に関連する検査を中心について学ぶ。授業内容は、作業療法の評価における各検査を体験を通して理解を深めていく。実技を通して基本的な技法を学んだ内容を小テストや実技テストを通して確実に知識・技術が身に付いていることを確認しながら進めていく。				
授業計画	第1回 徒手筋力検査①（検査目的、方法について） 第2回 徒手筋力検査②（肩、肩甲帯） 第3回 徒手筋力検査③（肘、前腕） 第4回 徒手筋力検査④（手関節、手指） 第5回 徒手筋力検査⑤（股関節） 第6回 徒手筋力検査⑥（膝関節、足関節） 第7回 徒手筋力検査⑦（体幹） 第8回 徒手筋力検査実技試験（上肢） 第9回 徒手筋力検査実技試験（下肢） 第10回 筋緊張検査の意義と目的 第11回 筋緊張検査 第12回 協調性検査の意義と目的 第13回 協調性検査 第14回 上肢機能検査の意義と目的 第15回 上肢機能検査（簡易上肢機能検査）				
履修上の注意	実技を中心に行なう。検査技術を獲得するためには授業時間が医学集として学生同士の実技練習が必須となる。				
成績評価	小テスト20%、実技テスト30%、定期試験50%				
テキスト	参考図書、その他				
佐竹勝『作業療法評価学（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト）』メディカルビュー社					

講義名	応用評価学演習				
講師名	石橋誠隆（実務経験者）				
学年	3	年	学期	後 期	時間 30 時間 選択 1 単位
講義目標	授業目標は、3年次までに修得した評価法とともに海外で用いられる評価法も取り入れ、さらに患者の状態の理解を把握する。各種検査の注意点を理解し、学生同士で正確に実施する。その他、臨床場面を意識して、ペーパーバイシエントを用いた演習で障害構造について演習を行う。必要に応じてグループ学習を行い、他者との関わりの中で思考を深める。4年次の理学療法総合臨床実習の前後に実施する客観的臨床能力試験（OSCE）の説明を行う。				
授業計画	第1回 応用評価学演習の目指すところ 第2回 脳血管症例に対する臨床思考過程、評価方法 第3回 脳血管症例に対する評価方法、統合解釈 第4回 運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する臨床思考過程、評価方法 第5回 運動器疾患（腰椎ヘルニアなど）症例に対する評価方法、統合解釈 第6回 神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する臨床思考過程、評価方法 第7回 神経変性疾患（パーキンソン病など）症例に対する評価方法、統合解釈 第8回 運動器疾患（大腿骨頸部骨折など）症例に対する臨床思考過程、評価方法 第9回 運動器疾患（大腿骨頸部骨折など）症例に対する評価方法、統合解釈 第10回 動作観察・分析①（逸脱動作を抽出する） 課題：分析レポート 第11回 動作観察・分析②（逸脱動作を分析する） 課題：分析レポート 第12回 動作観察・分析③（分析結果から機能障害を推論する） 課題：分析レポート 第13回 動作観察・分析④（逸脱動作から機能障害を推論する） 課題：分析レポート 第14回 精神疾患の捉え方・症例に対する対応 小テスト：動作分析 第15回 理学療法総合臨床実習における客観的臨床能力試験（OSCE）について				
履修上の注意	不良な学習態度（提出物の不備、必要な資料・教科書の忘れなど）がないように注意する。				
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)，レポート課題(60%)で判断する				
テキスト	参考図書．その他 リハビリテーションにおける評価Ver.3 医歯薬出版株式会社				

講義名	身体障害作業療法学Ⅰ									
講師名	吉田一平（実務経験者）、湯川喜裕（実務経験者）									
学年	2	年	学期	後 期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、脳血管障害による生活障害を持った人への作業療法を説明できることおよび、疾患の理解をし、評価と治療の構造を説明できることとする。授業では各種疾患の理解を、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、治療実施に至る思考プロセスを提示し理解を促すことを中心に授業展開を行なう。また、治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、最新知見に基づいた方法を学ぶ。									
授業計画	第1回 日常作業への介入概論 第2回 日常作業への介入基礎演習 自助具作成 第3回 スプリントの基本的知識と作製準備 第4回 スプリントの作製 第5回 車椅子の種類、目的、評価、障害別選定、シーティング、車いす駆動指導 第6回 習得モデル 第7回 リスク管理、二次障害予防 第8回 作業を基盤とした運動コントロールの基礎 第9回 作業を基盤とした運動コントロールの応用 第10回 作業を基盤とした運動コントロールの実際 第11回 模擬患者との介入演習①（上肢への介入） 第12回 模擬患者との介入演習②（歩行への介入） 第13回 模擬患者との介入演習③（基本動作への介入） 第14回 模擬患者との介入演習発表とフィードバック①（上肢・歩行） 第15回 模擬患者との介入演習発表とフィードバック②（基本動作）									
履修上の注意	この授業では、日常作業への作業療法介入の実際について、事例を通して、学んでいく。授業外での予習・復習が求められるので、しっかりと取り組むこと。									
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他									
作業療法全書 「日常生活活動評価」 協同医書										

講義名		身体障害作業療法学Ⅱ									
講師名		湯川喜裕（実務経験者）									
学年	2	年	学期	後	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標		高次脳機能障害のメカニズムの理解および、基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。授業内容は、注意障害、遂行機能障害、失行症、失認症、半側空間無視、失語症を中心として症状発現に関するメカニズムと評価治療について講義を進めていく。また、脳血管障害から起こる生活障害についてICFを用いて理解し、治療プログラムの立案までの一連のプロセス理解を促す。実際の症状と日常生活への影響の理解を促すために動画媒体を用いて授業を進めていく。									
授業計画		第1回	高次脳機能障害とは何か								
		第2回	高次脳機能障害の評価の概要								
		第3回	画像の見方、観察・面接の方法								
		第4回	神経心理学検査の紹介								
		第5回	意識障害と注意機能障害の特徴								
		第6回	意識障害と注意機能障害の評価と介入								
		第7回	半側空間無視および関連する障害の特徴								
		第8回	半側空間無視および関連する障害の評価と介入								
		第9回	感情障害の特徴と評価								
		第10回	認知とは、認知の障害の特徴								
		第11回	認知障害の評価と介入								
		第12回	言語障害の特徴と評価								
		第13回	記憶障害の特徴と評価								
		第14回	思考障害の特徴と評価								
		第15回	遂行機能障害の特徴と評価								
履修上の注意		予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにすること。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。									
成績評価		小テスト20%、定期試験80%									
テキスト		参考図書、その他									
佐竹勝『高次脳機能障害作業療法学 (作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト)』 メディカルビュー社											

講義名	身体障害作業療法学実習Ⅰ										
講師名	吉田一平（実務経験者）										
学年	3	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、整形疾患や脊髄損傷による生活障害を持った人への作業療法を説明できることおよび、疾患の理解をし、評価と治療の構造を説明できることとする。授業では各種疾患の理解を、その病態像に応じた評価方法論を教示するとともに、治療実施に至る思考プロセスを提示し理解を促すことを中心に授業展開を行なう。また、治療方法論では臨床で用いられやすい方法論、最新知見に基づいた方法論を説明していく。										
授業計画	第1回	オリエンテーション・手の整形外科疾患と解剖学の復習									
	第2回	手の骨折の概要									
	第3回	手の骨折の作業療法評価（実技）									
	第4回	手の骨折の作業療法アプローチ（実技）									
	第5回	末梢神経障害の概要									
	第6回	末梢神経障害の作業療法評価とアプローチ									
	第7回	関節リウマチの概要									
	第8回	関節リウマチの作業療法評価とアプローチ									
	第9回	腱損傷の概要・作業療法評価とアプローチ（実技）									
	第10回	熱傷と切断の概要・作業療法評価とアプローチ									
	第11回	手のスプリントの実際（型紙）									
	第12回	手のスプリントの実践（作成）									
	第13回	手の整形外科疾患の症例検討									
	第14回	手の整形外科疾患の症例検討									
	第15回	手の整形外科の作業療法評価とアプローチ例									
履修上の注意	遅刻・欠席に気をつけること。実技の際は袖を捲り上げやすい服装とハスタオルを持参のこと。スプリント作成時の準備物は授業内で伝えるので忘れず持参すること。										
成績評価	小テスト（20％）、レポート・報告（20％）、定期試験（60％）として評価する										
テキスト	参考図書、その他										
標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 矢谷 令子監修 医学書院											

講義名	身体障害作業療法学実習Ⅱ									
講師名	湯川喜裕（実務経験者）、長辻永喜（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は内部疾患や難病などの各障害におけるメカニズムの理解および、基礎的な評価方法と治療について説明できることとする。授業内容は、特定疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝性疾患、悪性新生物の基礎知識とリスク管理、作業療法介入について学習をする。また、喀痰吸引についても実技を通して学習する。									
授業計画	第1回 神経難病の障害特性と作業療法1（パーキンソン病） 第2回 神経難病の障害特性と作業療法2（ALS） 第3回 神経難病の障害特性と作業療法3（重症筋無力症） 第4回 神経難病の障害特性と作業療法4（多発性硬化症） 第5回 呼吸疾患と作業療法1（COPD） 第6回 呼吸疾患と作業療法2（肺癌） 第7回 呼吸疾患と作業療法3（喀痰吸引法） 第8回 呼吸疾患と作業療法4（喀痰吸引演習） 第9回 循環器疾患と作業療法1（高血圧症） 第10回 循環器疾患と作業療法2（心筋梗塞後遺症） 第11回 循環器疾患と作業療法3（慢性心不全） 第12回 循環器疾患と作業療法4（その他の循環器疾患） 第13回 代謝疾患と作業療法1（糖尿病） 第14回 代謝疾患と作業療法2（メタボリックシンドローム） 第15回 代謝疾患と作業療法3（その他代謝疾患）									
履修上の注意										
成績評価	小テスト（20％）、レポート・報告（20％）、定期試験（60％）として評価する									
テキスト	参考図書. その他 作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 医歯薬出版									

講義名	発達障害作業療法学Ⅰ										
講師名	奥田祥司（実務経験者）										
学年	3	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	発達障害領域の脳性麻痺を中心に障害特性、発達特性、家族支援や作業療法過程とその評価と治療・支援などを理解する。授業内容は、脳性麻痺の概要と類型別特徴、痙直型四肢麻痺、痙直型両麻痺、痙直型片麻痺、アテトーゼ型、失調型、混合型の特徴と評価、治療支援について、重症心身障害児（者）の概要とその評価と治療支援などについて学習する。										
授業計画	第1回 脳性麻痺について（概要） 第2回 脳性麻痺について（痙直型） 第3回 痙直型四肢麻痺児の特徴 第4回 痙直型四肢麻痺児の分析と評価計画立案 第5回 痙直型両麻痺児の特徴 第6回 痙直型両麻痺児の分析と評価計画立案 第7回 痙直型片麻痺児の特徴 第8回 痙直型片麻痺児の分析と評価計画立案 第9回 脳性麻痺について（アテトーゼ、失調型） 第10回 アテトーゼ型の特徴 第11回 アテトーゼ型の分析と評価計画立案 第12回 脳性麻痺について（混合型、弛緩型） 第13回 重症心身障害児について（概要） 第14回 重症心身障害児の特徴と分析 第15回 摂食機能について										
履修上の注意	ビデオを用いた分析、記録を行うことが多い。授業時間内で記載できなかったことは、次回の授業までに必ず記載をしておくこと。										
成績評価	受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する										
テキスト	上杉雅之「イラストでわかる発達障害の作業療法」 医歯薬出版										
参考図書、その他	長崎重信「ゴールドマスター 発達障害作業療法学」メ ディカルビュー社										

講義名	発達障害作業療法学Ⅱ						
講師名	奥田祥司（実務経験者）						
学年	3	年	学期	後 期	時間	30 時間	必修 1 単位
講義目標	発達障害領域の知的障害や自閉スペクトラム症などの障害特性、発達特性とその作業療法評価と治療・支援について理解する。内容としては、知的障害、自閉スペクトラム症、注意欠陥多動性障害、学習障害などの特徴とその評価やライフステージに合わせた治療支援、感覚統合障害の評価と治療支援について学習する。						
授業計画	第1回 発達障害とは 第2回 知的障害の臨床像の理解 第3回 知的障害の評価と治療 第4回 ダウン症の臨床像の理解 第5回 ダウン症の評価と治療 第6回 自閉スペクトラム症の臨床像 第7回 自閉症スペクトラムの評価 第8回 自閉スペクトラム症の治療 第9回 学習障害の臨床像 第10回 学習障害の評価と治療 第11回 ADHDの臨床像 第12回 ADHDの評価と治療 第13回 感覚統合障害の評価 第14回 感覚統合障害の治療 第15回 特別支援教育について						
履修上の注意	予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにすること。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。						
成績評価	受講態度(20%)、定期試験(80%)で判断する						
テキスト	上杉雅之「イラストでわかる発達障害の作業療法」 医歯薬出版			参考図書、その他 長崎重信「ゴールドマスター 発達障害作業療法学」メ ディカルビュー社			

講義名	精神障害作業療法学Ⅰ				
講師名	山田大豪（実務経験者）				
学年	3	年	学期	前期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	授業目標は、精神障害に対する作業療法評価から治療計画の立案を理解すること、作業療法の対象となる精神疾患について理解し、作業療法治療援助の知識を習得することである。授業内容は作業療法の基本構造、評価プロセスの学習、疾患別作業療法として統合失調症、気分障害などを学習する。授業の中で実際に評価を体験し、ICFを用いて統合と解釈の流れについて学ぶ。				
授業計画	第1回	オリエンテーション 精神科作業療法の歴史			
	第2回	統合失調症の作業療法（入院中の作業療法）			
	第3回	統合失調症の作業療法（社会生活場面での作業療法）			
	第4回	森田療法			
	第5回	神経症性障害の作業療法			
	第6回	てんかんの作業療法			
	第7回	器質性精神障害の作業療法			
	第8回	その他の疾患・障害の作業療法 SST と作業療法			
	第9回	SST と作業療法（目的）			小テスト
	第10回	SST と作業療法（ロールプレイ）			
	第11回	SST と作業療法（モデリング）			
	第12回	SST と作業療法（社会生活の改善）			
	第13回	SST と作業療法（練習の順序について）			
	第14回	SST と作業療法（対象者と関係職種）			
	第15回	SST と作業療法（まとめ）			
履修上の注意	授業後にはレポートを提出する。定期的に小テストを行う。				
成績評価	小テスト(20%)、レポート課題(20%)、定期試験(60%)で判断する				
テキスト	参考図書. その他 作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2精神障害 富岡詔子・小林正義編集 協同医書出版社				

講義名	精神障害作業療法学Ⅱ									
講師名	山田大豪（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	授業目標は、精神障害に対する作業療法の治療目標と具体的な医療計画立案について理解できるようになることである。作業療法の対象となる精神疾患について理解を深め、作業療法治療援助を実践するための知識を修得することである。授業内容は、精神障害作業療法学Ⅰで学んだ精神科作業療法の視点、治療、援助構造、評価について、事例を用いてその関連性を統合できるように理解を進める。									
授業計画	第1回	オリエンテーション 精神科作業療法の評価								
	第2回	精神科作業療法評価								
	第3回	精神作用物質使用による精神および行動の障害の作業療法								
	第4回	人格障害・摂食障害の作業療法								
	第5回	気分障害の作業療法								
	第6回	てんかんの作業療法								
	第7回	その他の疾患・障害の作業療法								
	第8回	精神科領域での就労支援（一般雇用）								小テスト
	第9回	精神科領域での就労支援（福祉的就労、在宅就労）								
	第10回	認知行動療法と作業療法								
	第11回	事例検討								
	第12回	作業療法の実際（入院生活技能訓練）								
	第13回	作業療法の実際（入院集団精神療法）								
	第14回	作業療法の実際（通院集団精神療法）								
	第15回	作業療法の実際（まとめ）								
履修上の注意	授業後にはレポートを提出する。定期的に小テストを行う。									
成績評価	小テスト(20%)、レポート課題(20%)、定期試験(60%)で判断する									
テキスト	作業療法学全書改訂第3版第5巻作業治療学2精神障害 富岡詔子・小林正義編集 協同医書出版社									
	参考図書、その他									

講義名	老年期障害作業療法学Ⅰ										
講師名	岡橋さやか（実務経験者）										
学年	3	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	①高齢者の現状、高齢社会到来の経緯と社会制度の変化を理解する、②加齢による高齢者の一般的特徴を理解する、③老年期に多い各種障害・症状および一般的評価方法を理解する、④老年期に多い各種疾患に対する作業療法の評価・介入方法を理解することである。授業内容は、高齢社会到来の背景と高齢者の現状を述べ、老年期障害の一般的特徴、生理機能の変化、高齢者に多い症候（転倒、排尿障害、心疾患、肺疾患、認知症、パーキンソン症候群、廃用性症候群など）を講義し、作業療法の評価と介入方法を教示する。										
授業計画	第1回	高齢化社会に伴う諸問題									
	第2回	高齢化社会の時代的背景									
	第3回	加齢による高齢者の一般的特徴									
	第4回	介護保険制度について									
	第5回	老年期作業療法の実践(基本的枠組み)									
	第6回	老年期作業療法の実践(特定高齢者,一般高齢者について)									
	第7回	老年期障害のマネジメント1（機能障害に対して）									
	第8回	老年期障害のマネジメント2（精神障害に対して）									
	第9回	老年期障害疾患別作業療法（廃用症候群）									小テスト
	第10回	老年期障害疾患別作業療法（内部障害）									
	第11回	老年期障害疾患別作業療法（心疾患、呼吸器疾患）									
	第12回	老年期障害疾患別作業療法（中枢性疾患①脳血管障害）									
	第13回	老年期障害疾患別作業療法（中枢性疾患②パーキンソン病）									
	第14回	老年期障害疾患別作業療法（整形外科疾患①上肢）									
	第15回	老年期障害疾患別作業療法（整形外科疾患②下肢）									
履修上の注意	予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにすること。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。										
成績評価	小テスト20%、定期試験80%										
テキスト	徳永千尋「老年期作業療法学（作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト）」メディカルビュー社										
参考図書、その他											

講義名	老年期障害作業療法学Ⅱ				
講師名	岡橋さやか（実務経験者）				
学年	3	年	学期	後 期	時間 60 時間 必修 2 単位
講義目標	授業目標は、認知症に対する病態理解、症状および一般的評価を理解し、作業療法の介入方法を理解することができることである。授業内容として、認知症に対する作業療法士の役割および形態、作業療法プロセス（評価・統合と解釈・目標設定・目的とアプローチ、実施方法）、作業療法治療理論、家族や多職種との連携について説明を行なう。				
授業計画	第1回	認知症の疫学	（1回2時間、1～15回迄同様）		
	第2回	認知症の病態と症状			
	第3回	認知症の治療			
	第4回	認知症をもつ人への作業療法の視点			
	第5回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス			
	第6回	認知症に対する作業療法評価①（ニーズ・背景の評価）			
	第7回	認知症に対する作業療法評価②（作業遂行の評価）			
	第8回	認知症に対する介入	小テスト		
	第9回	認知症に対する作業療法の理論と手法①（アクティビティ）			
	第10回	認知症に対する作業療法の理論と手法②（活動形態）			
	第11回	回想法			
	第12回	認知症に対する基本となるかわり			
	第13回	認知症に対する作業療法アプローチ（事例①）			
	第14回	認知症に対する作業療法アプローチ（事例②）			
	第15回	認知症に対する作業療法アプローチ（事例③）			
履修上の注意	予習をしっかりと行い、能動的に授業に参加するようにする。 授業後は、復習をしっかりと行い知識の定着に努めること。				
成績評価	小テスト20%、定期試験80%				
テキスト	参考図書. その他 宮口秀樹「認知症をもつ人への作業療法アプローチ」メディカルビュー社				

講義名	日常生活活動学									
講師名	西尾恵（実務経験者）、吉田一平（実務経験者）									
学年	2	年	学期	後 期	時間	60	時間	必修	2	単位
講義目標	①日常生活活動、疾患、症状と日常生活活動の基礎知識について理解し、標準化されたADL検査を実施できること、②日常生活の支援をするための治療的技術を選択できるようになること、③ICFの概念に基づき日常生活障害に影響する様々な要因を理解し解決策を説明できるようになることである。授業内容は、ADLの標準化された評価法（Functional Independence Measure、バーサルインデックスなど）の習得と臨床の評価に必要なADLの観察方法、基本的能力や環境との関連性を考慮した分析を学ぶ。									
授業計画	第1回	ICFについて				（1回2時間、1～15回迄同様）				
	第2回	身体構造について								
	第3回	心身機能について								
	第4回	活動の要素について								
	第5回	参加の要素について								
	第6回	環境因子について								
	第7回	事例におけるICFの理解								
	第8回	ADLの基礎								
	第9回	ADLの基礎の評価								
	第10回	ADLの治療理論								
	第11回	ADL評価の実際 高齢者の自立度								
	第12回	ADL評価の実際 Barthel Index								
	第13回	ADL評価の実際 Functional Independence Measure								
	第14回	ADL評価の実際 Frenchai Activity Index								
	第15回	ICFとADL評価								
履修上の注意	ICFの項目について、講義前に書籍等で確認して置くこと。講義においては、事例等を用いて、ICFの項目に分類するなどのワークショップを行う予定である。 ADL評価に関して事前に書籍等を読み、評価に関する概要について理解して置くこと。									
成績評価	日常生活活動の評価およびICFに関する内容は、試験を実施し80%で評価し、20%はワークショップ等の課題の成果で評価する									
テキスト	参考図書、その他									
標準作業療法学 日常生活活動学・社会生活行為学 医学書院										

講義名	日常生活活動学実習Ⅰ				
講師名	吉田一平（実務経験者）、西尾恵（実務経験者）				
学年	3	年	学期	前期	時間 60 時間 必修 2 単位
講義目標	日常生活活動の構成要素を理解できること、日常生活活動に関わる作業療法評価と治療的介入について説明ができるようになることとする。構成要素の理解では、食事・排泄・入浴・整容・更衣について物理的特徴や文化的特徴、動作的特徴などに分類し、グループワークを通して分析を進める。その分析内容は発表会を持って全体に広めていく。				
授業計画	第1回	身体機能のADL・APDL	起居移動	（1回2時間、1～15回迄同様）	
	第2回	身体機能のADL・APDL	食事		
	第3回	身体機能のADL・APDL	整容		
	第4回	身体機能のADL・APDL	更衣		
	第5回	身体機能のADL・APDL	排泄		
	第6回	身体機能のADL・APDL	入浴		
	第7回	身体機能のADL・APDL	炊事		
	第8回	身体機能のADL・APDL	掃除		
	第9回	身体機能のADL・APDL	買い物		
	第10回	社会生活行為の支援	教育・就労		
	第11回	社会生活行為の支援	コミュニティ・遊び		
	第12回	高齢者・障がい者を取り巻く生活環境			
	第13回	排泄の環境アセスメントと支援			
	第14回	入浴の環境アセスメントと支援			
	第15回	歩装具・福祉用具・住環境			
履修上の注意	前半は作業支援について行う。実施する生活活動に関する内容について、書籍を読み把握しておくこと。 後半は疾患・領域別の生活行為の理解を深める。疾患や障害について、発達障害・精神障害に関する内容を事前に確認しておくこと。				
成績評価	演習に対する態度、課題における遂行状況を50％で評価する。演習課題の提出およびその内容についてを50％で判定する				
テキスト	参考図書、その他				
標準作業療法学 日常生活活動学・社会生活行為学 医学書院					

講義名	日常生活活動学実習Ⅱ				
講師名	西尾恵（実務経験者）				
学年	3	年	学期	前期	時間 30 時間 必修 1 単位
講義目標	一般的な起居動作の動作分析ができることと、作業分析が理解できることとする。授業内容では、作業療法独自の観察評価について理解を進める。後に健康者や臨床の対象者動画を通じて数例の作業分析を進めていく。また、2つ目の基本動作の分析では、寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行についての基本動作分析を行なう。それぞれの動作に伴う分析ポイントを教示し、学生間の演習を通じてさらに理解を深めていく。その後、全体に共通の事例を提示し、知識を用いながら分析を進めていく授業展開とする。				
授業計画	第1回 作業と運動学 作業時の力と筋活動 第2回 作業と運動学 運動と作業、姿勢保持 第3回 作業と神経心理学 作業と筋電 第4回 作業と神経心理学 作業とニューロリハビリテーション 第5回 基本動作演習 寝返り・起き上がり 第6回 基本動作演習 立ち上がり 第7回 基本動作演習 歩行1（一般的な歩行） 第8回 基本動作演習 歩行2（高齢者の歩行） 第9回 基本動作演習 杖歩行 第10回 基本動作演習 車椅子駆動1（両手駆動） 第11回 基本動作演習 車椅子駆動2（片手片足駆動） 第12回 ADL活動時の筋活動1（歩行時の筋活動） 第13回 ADL活動時の筋活動2（寝返り、起き上がりの筋活動） 第14回 事例検討1（事例A） 第15回 事例検討2（事例B）				
履修上の注意	前半は動作および運動学的な内容について理解を深める。事前に運動学および参考書等の内容を読み把握しておくこと。 後半は演習を中心に動作・行為について理解を深めていく。運動・生理学的に生活を捉えてらる様、運動学および生理学手法に関する内容を事前に確認しておくこと。				
成績評価	演習に対する態度、課題における遂行状況を50％で評価する。演習課題の提出およびその内容についてを50％で判定する				
テキスト	参考図書. その他				
標準作業療法学 日常生活活動学・社会生活行為学 医学書院					
標準作業療法学 基礎作業学 第3版 医学書院					

講義名	障害者スポーツ演習				
講師名	森本信三（実務経験者）				
学年	3	年	学期	前期	時間 30 時間 選択 1 単位
講義目標	障害者スポーツについて、実技演習を交えて学ぶ。障がい者スポーツの意義と理念を理解し、身体障害、知的障害、精神障害とスポーツについて理解を深めるとともに、日本国内における障がい者スポーツの現状と指導者育成制度について学ぶ。また、障害に応じたスポーツの工夫や、障害者スポーツ指導者について理解する。初めてスポーツを行う方に対して、スポーツの喜びや楽しさを重視したスポーツの導入を支援できるような知識と技術を身につける。				
授業計画	第1回 コース・オリエンテーション 障害者スポーツの意義と理念 第2回 障害者の理解、障害者とスポーツの効果について学ぶ。 第3回 障害者福祉と法律について学ぶ。 第4回 障害者のスポーツの現状と課題について学ぶ。 第5回 障害者のスポーツ指導者の育成について学ぶ。 第6回 障害の理解とスポーツの実際（身体障害など）① 第7回 障害の理解とスポーツの実際（知的障害など）② 第8回 障害の理解とスポーツの実際（精神障害など）③ 第9回 障害の理解とスポーツの実際（視覚障害など）④ 第10回 安全管理とボランティアについて学ぶ。 第11回 障害者のスポーツ指導者の育成について学ぶ。 第12回 障害者スポーツに関する教育・研究機関、学会、団体等 第13回 障害者のスポーツ指導上の留意点 第14回 パラリンピック競技について学ぶ。 第15回 競技種目別や地域レベル障害者スポーツについて学ぶ。				
履修上の注意					
成績評価	受講態度（20％）レポート課題(100％)で判断する				
テキスト	参考図書．その他				
	配布資料を中心に授業を行う。 授業中、適宜紹介する、				

講義名	高次脳機能障害の治療法									
講師名	湯川喜裕（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	授業目標は、作業療法士・理学療法士が知っておく必要がある高次脳機能障害のスクリーニング検査や理学療法中の注意事項やアプローチ方法などを講義やグループワークで学ぶことである。特に高次脳機能障害について、病巣や症状を理解することができるようにする。									
授業計画	第1回	オリエンテーション・高次脳機能障害の概要								
	第2回	認知機能検査の実際と解釈								
	第3回	注意機能の評価の実際と解釈・注意障害における理学療法中の注意事項								
	第4回	注意障害の特徴と評価、リハビリテーション								
	第5回	半側空間無視の評価の解釈・半側空間無視における理学療法中の注意事項								
	第6回	半側空間無視の特徴と評価、リハビリテーション								
	第7回	記憶の評価の解釈、記憶障害における理学療法中の注意事項								
	第8回	記憶障害の特徴と評価、リハビリテーション								
	第9回	失語の評価の実際、失語症の評価の解釈・失行症における理学療法中の注意事項								
	第10回	失語の特徴と評価、リハビリテーション								
	第11回	行為の評価の実際、行為の評価の解釈・失行症における理学療法中の注意事項								
	第12回	失行の特徴と評価、リハビリテーション								
	第13回	その他の評価の実際と解釈								
	第14回	前頭葉障害の特徴と評価、リハビリテーション								
	第15回	遂行機能障害の特徴と評価、リハビリテーション								
履修上の注意	毎回の授業の復習をすること。遅刻・欠席はしないように。									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他 高次脳機能障害学マエストロシリーズ （1）基礎知識のエッセンス 医歯薬出版 高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版									

講義名	認知症の理解とその支援									
講師名	岡橋さやか（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	授業目標は、認知症の疫学やその分類、症状と、認知症の人を取り巻く社会背景を理解することにより、認知症の人のその人らしさを尊重した専門職としての支援方法を考える力と態度を養うことである。									
授業計画	第1回 認知症とは 第2回 認知症の疫学と各国の政策 第3回 認知症の病態と症状 第4回 主な原因疾患の症状と経過 第5回 認知症の治療 第6回 パーソン・センタード・ケア 第7回 認知症をもつ人への評価 ① 第8回 認知症をもつ人への評価 ② 第9回 心身機能への支援 ① 第10回 心身機能への支援 ② 第11回 作業を用いた支援 ① 第12回 作業を用いた支援 ② 第13回 IADL・ADLへの支援 第14回 物的・社会的環境への支援 第15回 回想法、リアリティ・オリエンテーション、その他の支援方法									
履修上の注意	予習・復習を行い、授業に積極的・能動的に参加すること。 グループディスカッションを多く取り入れるので、学びを深めること。									
成績評価	小テスト(20%)、講義中課題(20%)、レポート課題(60%)で判断する									
テキスト	資料配付する。									
	参考図書、その他 宮口英樹・監修 小川真寛、他・編集認知症をもつ人への作業療法アプローチ ―視点・プロセス・理論― メジカルビュー社 トム・キットリット&キャスリーン・ノレティン著 認知症の介護のために知っておきたい大切なこと パーソンセンタードケア入門 高橋誠一監訳 寺田真理子訳 筒井書房									

講義名	レクリエーション活動演習									
講師名	山田大豪（実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	30	時間	選択	1	単位
講義目標	授業目標は、レクリエーションの対象・効果を理解し、病状の軽減や活動量の増加を目指す内容、すなわちリハビリテーションに通じるように用いる技術を体得することである。レクリエーションの種類、内容の紹介から始まり、対象者に応じて実施できるよう演習する。									
授業計画	第1回 レクリエーションの基本理念 第2回 治療的レクリエーションの技法 第3回 種目別レクリエーション活動（1） 講義：遊戯・ゲーム 第4回 種目別レクリエーション活動（2） 演習：遊戯・ゲーム 第5回 種目別レクリエーション活動（3） 講義：スポーツ・音楽・工芸・社交的活動など 第6回 種目別レクリエーション活動（4） 演習：スポーツ・音楽・工芸・社交的活動など 第7回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（1） 講義：脳卒中・筋ジストロフィー・ALS・PD・脊損など 第8回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（2） 演習：脳卒中・筋ジストロフィー・ALS・PD・脊損など 第9回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（3） 講義：外傷性脳損傷・リウマチ・心疾患・統合失調症など 第10回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（4） 演習：外傷性脳損傷・リウマチ・心疾患・統合失調症など 第11回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（5） 講義：知的障害・自閉症・認知症・視覚障害など 第12回 疾患・障害別に見た治療的レクリエーション活動（6） 講義：知的障害・自閉症・認知症・視覚障害など 第13回 施設別にみた治療的レクリエーション活動（1） 保健センター・病院など 第14回 施設別にみた治療的レクリエーション活動（2） 介護保険施設・サービスなど 第15回 施設別にみた治療的レクリエーション活動（3） 障害児（者）施設など									
履修上の注意	予習・復習を行い、授業に積極的・能動的に参加する。 グループでの発表や演習もあるので、意見交換をしっかりと行い学びを深めること。									
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する									
テキスト	参考図書、その他 中村春基・他 レクリエーション【改訂第2版】社会参加を促す治療的レクリエーション									

講義名	地域作業療法学Ⅰ									
講師名	山田大豪（実務経験者）									
学年	2	年	学期	後 期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	①地域リハビリテーションの概念と歴史を理解する、②地域作業療法に必要な様々な社会保障制度を理解する、③地域リハビリテーションにおける作業療法士の役割を理解する、④地域作業療法に必要な疾患の知識、評価・介入の技術およびリスク管理を理解することである。 授業内容は、地域作業療法に必要な訪問リハビリテーション、住宅改修の方法と制度、予防的施策とリハビリテーション職種の介入、ケアマネジメントについて講義を行う。									
授業計画	第1回 地域リハビリテーションとは 第2回 地域作業療法とは 第3回 社会保障制度 第4回 介護保険制度における作業療法 第5回 障害者総合支援法における作業療法 第6回 教育・企業における作業療法 第7回 社会生活支援を学ぶ 第8回 居住環境改善について理解する 第9回 居住環境改善方法について理解する 第10回 居住環境改善方法の事例検討する 第11回 生活行為向上マネジメント（MTDLP）を学ぶ 第12回 MTDLPの実践例から学ぶ 第13回 MTDLPを理解する 第14回 MTDLPを用いて、評価を行う 第15回 MTDLPの評価から支援計画を立案する									
履修上の注意	社会保障制度に関して、講義前に法制度の概要や作業療法に関する部分を読み概要を理解して置くこと。生活行為向上マネジメントに関する情報は、日本作業療法士協会のHPを閲覧し、その概要について事前に理解を深めて置くこと。									
成績評価	社会保障制度に関する内容において、試験を実施し、50％で評価する。生活行為向上マネジメントに関する事例検討の内容を50％で評価する。									
テキスト	参考図書、その他									
標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 医学書院					標準作業療法学 日常生活活動学・社会生活行為学 医学書院					
事例で学ぶ生活行為向上マネジメント 医歯薬出版株式会社					作業療法マニュアル57 生活行為向上マネジメント 一般社団法人日本作業療法士協会					

講義名	地域作業療法学Ⅱ										
講師名	岡橋さやか（実務経験者）										
学年	3	年	学期	前	期	時間	30	時間	必修	1	単位
講義目標	地域活動実践者による講義を通して、身体障害者,精神障害者,発達障害者および老年期障害者に対する多様な地域活動の実際と作業療法(士)の役割を学ぶことである。 授業内容は、地域の様々な領域を総合的に学習し、地域における作業療法の理解を進めることである。										
授業計画	第1回 地域作業療法の実践の場を知る 第2回 地域作業療法の実践例 身障領域 第3回 地域作業療法実践者の活動 1（精神障害領域） 第4回 地域作業療法の実践例 精神障害領域 第5回 地域作業療法実践者の活動 2（高齢期障害領域） 第6回 地域作業療法の実践例 高齢期障害領域 第7回 地域作業療法実践者の活動 3（訪問作業療法領域） 第8回 地域作業療法の実践例 訪問作業療法領域 第9回 地域作業療法実践者の活動 4（就労支援領域） 第10回 地域作業療法の実践例 就労支援領域 第11回 地域作業療法実践者の活動 5（発達障害領域） 第12回 地域作業療法の実践例 発達障害領域 第13回 地域での課題を検討する 第14回 地域での課題を解決する方略の検討 第15回 地域での課題を解決する方略の実現の検討										
履修上の注意	地域で活躍している作業療法士から地域で活動する際の課題等を学ぶ機会を作っている。地域作業療法学で学んだ、基盤となる法制度や施設に関する情報を事前に確認しておくこと。 講義で学んだ内容についての記載およびその内容に関するディスカッションを行う。										
成績評価	課題における遂行状況を50％で評価する。課題の提出およびその内容についてを50％で判定する。										
テキスト	参考図書、その他										
標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 医学書院						地域リハビリテーション論 Ver.7 三輪書店					
標準作業療法学 日常生活活動学・社会生活行為学 医学書院											

講義名	地域作業療法学実習									
講師名	山田大豪、長辻永喜、岡橋さやか、湯川喜裕、吉田一平、西尾恵 （全員実務経験者）									
学年	3	年	学期	後 期	時間	60	時間	必修	2	単位
講義目標	授業目標は、地域活動実践者による講義を通して、身体障害者、精神障害者、発達障害者および老年期障害者に対する多様な地域活動の実際と作業療法(士)の役割を学ぶことである。授業内容は、地域の様々な領域を総合的に学習し、地域における作業療法の理解を進めることである。									
授業計画	第1回	地域作業療法の実践 （精神障害者の地域移行支援）				（1回2時間、1～15回迄同様）				
	第2回	地域作業療法の実践 （障害者の就労支援施設等の施設見学準備）								
	第3回	地域作業療法の実践 （障害者の就労支援施設等の施設見学）								
	第4回									
	第5回									
	第6回									
	第7回	地域作業療法の実践 （障害者の就労支援施設等の施設見学発表）								
	第8回	地域作業療法の実践 （障害高齢者の地域移行支援）								
	第9回	地域作業療法の実践 （介護実習普及センターの施設見学準備）								
	第10回	地域作業療法の実践 （介護実習普及センターの施設見学）								
	第11回									
	第12回									
	第13回									
	第14回	地域作業療法の実践 （介護実習普及センターの施設見学発表）								
	第15回	まとめ								
履修上の注意	職業リハビリテーションを実現していくための法制度や社会資源、障害を持つ人々に対する具体的なアセスメントや援助など作業療法の機能と役割について教授する。本科目は地域志向科目となる。									
成績評価	受講態度(20%)、レポート課題(80%)で判断する									
テキスト	地域リハビリテーション原論 太田仁史 医歯薬出版株式会社									
	参考図書、その他									

講義名	作業療法見学実習										
講師名	山田大豪、長辻永喜、岡橋さやか、湯川喜裕、吉田一平、西尾恵 （全員実務経験者）										
学年	1	年	学期	前	期	時間	45	時間	必修	1	単位
講義目標	医療人としての接遇・態度を身につけること、そして作業療法の対象となる人や疾患像を明確にすること、作業療法における施設特性を理解することである。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で、作業療法過程と対象者の関わり方を見学する。また、その施設の関連職種の業務や患者・利用者への関わり方の違いやチームアプローチについて理解する。その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。										
授業計画	1日目　オリエンテーション（実習目的と実習内容） 2日目　実習病院及び作業療法場面を見学し、指導者より作業療法士の役割について説明を受ける 3日目　作業療法場面を見学し、指導者より作業療法士の専門性について説明を受ける 4日目　作業療法場面を見学し、指導者より代表的な対象疾患及び障害像について説明を受ける 5日目　実習まとめ										
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な作業療法過程を経験すること										
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S、A、B、C、D）は原則、本学がおこなう。実習指導者による本学規定の臨床実習報告書実習、実習中レポート、終了後まとめレポート及び発表会にて行う。										
テキスト	なし										
	参考図書、その他 OT臨地実習ルートマップ改訂第2版 メジカルビュー社										

講義名	作業療法体験実習				
講師名	山田大豪、長辻永喜、岡橋さやか、湯川喜裕、吉田一平、西尾恵 (全員実務経験者)				
学年	2	年	学期	後 期	時間 90 時間 必修 2 単位
講義目標	学内外で学んだ内容を活かし、臨床実習指導者の指導の下で、見学と対象者との会話等においての体験を行う。また、チームの一員として問診、授業で履修している作業療法評価を共同参加により作業療法過程を体験する。その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。その内の1週間は、通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションにおいて行う（1単位）。				
授業計画	1 週目 オリエンテーションや見学を通して作業療法士像の一部を把握できる。 2 週目 臨床実習指導者のもと作業療法士像を把握できる。 3 週目 臨床実習指導者のもと作業療法士像を把握できる。				
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な作業療法過程を経験すること。				
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。実習指導者による本学規定の臨床実習報告書実習、実習中レポート、終了後まとめレポート及び発表会にて行う。				
テキスト	参考図書、その他 OT臨地実習ルートマップ改訂第2版 メジカルビュー社				

講義名	作業療法評価実習										
講師名	山田大豪、長辻永喜、岡橋さやか、湯川喜裕、吉田一平、西尾恵 （全員実務経験者）										
学年	3	年	学期	前	期	時間	180	時間	必修	4	単位
講義目標	学内で学んだ各種作業療法評価とその考え方をベースにし、臨床での作業療法評価の体験を通して、作業療法における臨床思考過程を学ぶこととする。特に、作業療法評価後の目標設定や治療プログラムの立案にあたっては臨床実習指導者の思考過程を具体的な教示を提示してもらい理解を進める。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。										
授業計画	1 週目 オリエンテーションや見学を通して一部の疾患・障害像を把握できる。 2 週目 臨床実習指導者のもと一部の疾患・障害像を把握できる。 3 週目 臨床実習指導者のもと患者に適した作業療法評価を抽出できる。 4 週目 臨床実習指導者のもと作業療法評価の一部を実施する。 5 週目 臨床実習指導者のもと作業療法評価の一部を実施する。										
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと。 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な作業療法過程を経験すること。										
成績評価	臨床実習終了時、総合評価における成績判定（S,A,B,C,D）は原則、本学がおこなう。 成績判定の資料として本学の評定表に加え、実習前OSCE、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。										
テキスト	なし 参考図書、その他 OT臨地実習ルートマップ改訂第2版 メジカルビュー社										

講義名	作業療法総合臨床実習				
講師名	山田大豪、長辻永喜、岡橋さやか、湯川喜裕、吉田一平、西尾恵 (全員実務経験者)				
学年	4	年	学期	前期	時間 720 時間 必修 16 単位
講義目標	8週間の臨床実習施設2か所での作業療法支援の体験を通して、作業療法の臨床思考過程と実践方法を診療チームの一員として学び、作業療法評価の実施技能及び作業療法支援を検討できる。実習内容は、臨床実習指導者の指導の下で『見学』『協同参加』『監視』の各レベルにおいて、チームの一員として一部作業療法過程を体験する。また、その経験内容は日々の課題として蓄積していくように進める。				
授業計画	実習前 OSCEから作業療法の評価技能及び作業療法支援の検討状況を確認する 1 週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。 2 週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。 3 週目 臨床実習指導者と一緒に作業療法評価を実施できる 4 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的作業療法の立案を一部実施できる 5 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的作業療法を実施できる 6 週目 臨床実習指導者のもと基本的作業療法の立案を実施できる 7 週目 臨床実習指導者のもと基本的作業療法の一部を実施できる 8 週目 臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的作業療法が実施できる。 9 週目 オリエンテーションや見学を通して多様な疾患・障害像を把握できる。 10 週目 多様な疾患・障害像を理解し、説明できる。 11 週目 臨床実習指導者と一緒に作業療法評価を実施できる 12 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的作業療法の立案を一部実施できる 13 週目 臨床実習指導者と一緒に基本的作業療法を実施できる 14 週目 臨床実習指導者のもと基本的作業療法の立案を実施できる 15 週目 臨床実習指導者のもと基本的作業療法の一部を実施できる 16 週目 臨床実習指導者の監視のもとで一部の基本的作業療法が実施できる。 実習後 OSCEから作業療法の評価技能及び作業療法支援の検討状況を確認する				
履修上の注意	詳細は臨床実習要綱を参照のこと 実習中は臨床実習指導者のもとチームの一員として様々な作業療法過程を経験すること				
成績評価	実習前後に客観的臨床能力試験(OSCE)を行う。臨床実習終了時、総合評価における成績判定(S,A,B,C,D)は原則、本学がおこなう。成績判定の資料として本学の評定表に加え、臨床実習報告書、臨床実習経験表、凝縮ポートフォリオを参考に、実習前後のOSCEの結果、実習後発表会及び口頭試問にて判定する。				
テキスト	なし 参考図書、その他 OT臨床実習ルートマップ改訂第2版 メジカルビュー社				